



新しい楽譜 (12音譜) に慣れる為に



著者 夏山澄夫

はじめに

新しい楽譜（１２音譜）に慣れる為に

著者 夏山澄夫

はじめに

新しい楽譜を提案しました。この楽譜は従来の楽譜に比べてやさしいものです。ですが実際にこの楽譜を使いこなすには先ずこの楽譜の長所を理解し、更にこれによく慣れることが重要です。

この楽譜の主な長所は以下の通りです。

- ①シャープとフラットは使われないのでシンプルで分かり易い。
- ②音符と鍵盤が直接対応しており、音符を見ただけで鍵盤位置が直ぐ分かる。
- ③どの調も同じ様に弾け、今までのような調による癖や偏りが一切ない。
- ④楽譜を見れば、和音が直ぐ分かり、和音進行がはっきりする。

この楽譜に慣れるための説明を本書では行っています。今までの楽譜とは大きく変わる場所があります。従来の楽譜から離れて新しい見方も必要です。そこでこの方式の基本になる場所を重点的に説明しています。

なおこの楽譜は“１２音譜”といいます。<http://km87290.web.fc2.com/htdocs/Japanese/page7.html-link-1>に参考の資料がありますので、開いて下さい。さらにこの楽譜については

- １．夏山澄夫のホームページ（<http://km87290.web.fc2.com/htdocs/index.html>）
- ２．“音楽に＃・♭は全く必要ありません”（<http://p.booklog.jp/book/27711>）

も是非参照して下さい。

音楽にシャープとフラットを使わない理由

従来から音楽には必ずシャープとフラットが使われて来ましたが、実はこれらを使用しない方がよいのです。シャープとフラットはハ長調には向いていますが、その他の調には不向きなのです。従ってハ長調だけ弾くのならば問題ありませんが、その他の調も弾くのであれば決してよいことではないと言えます。シャープとフラットを使わなければ、音楽はより合理的で簡単になります。ここでは詳しく説明しませんが、上記の２つの資料に解説されていますので参考にして下さい。

目次

I. 新しい楽譜（1 2 音譜）

新しい楽譜（1 2 音譜）に慣れる為に
1 2 の調がいつも連想される
従来の白鍵盤と黒鍵盤の色を一部変更
五線譜と鍵盤の位置関係

II. ドレミファソラシド

ドレミファソラシドはこうなる
各調の説明
1 2 音譜の例
短音階の場合

III. 和音

和音の成り立ち
転調と和音の繋がり
1) 転調と和音
2) 短音階和音の繋がり
特別な和音の説明
1) 1 0 の和音
2) 3 半音間隔の和音
3) 4 半音間隔の和音
4) その他の和音

IV. 楽譜に慣れるには

2 音の位置を憶える
1) オクターブ内の 2 音の関係
2) 2 音の組み合わせ

V. まとめ

楽譜が読みやすくなる理由
その他の 1 2 音譜の実例
まとめ

1. 新しい楽譜（1 2 音譜）

☆☆ 新しい楽譜（1 2 音譜）に慣れる為に ☆☆

多くの実際の楽譜を見るには、[ここをクリック](#)して下さい。

この本はpubooに既投稿の本“音楽に＃・ｂは全く必要ありません”（<http://p.booklog.jp/book/27711>）で示した新楽譜についての分かりやすい説明です。新しい楽譜（1 2 音譜）に慣れる為に、参考にして下さい。

既投稿の“音楽に＃・ｂは全く必要ありません”では音楽理論を中心に説明しています。しかし、この新しい方式（1 2 音譜）によく慣れてこれを使いこなす為には、更にこの楽譜に対する具体的な説明も必要です。そこで次に実際の調や和音と鍵盤の関係などを個別に詳しく示して行くことにします。

つまりこの本では“1 2 音譜”の実際について明示しており、新方式に慣れる為の新しい楽譜の見方や、新しい着目点についてまとめて説明しています。

今までは誰もがシャープとフラットの使用に慣れ切っているため、はじめは新方式に少々戸惑ったり、混乱したりするかもしれません。どうしても半音上げるとか、半音下げるという考えが出てくるかもしれません。しかしこの方式は半音上げるとか、半音下げるといような音符の間接読みではなく、音符を直接読むものです。ですから先ず半音上げるとか、半音下げるという考え方を全て捨て去ることが必要になります。

この方式は音符を直読します。これは従来方式と大きく異なるところです。音符位置の直読は従来と全く違い、調によって差が出るものではありません。従って音符を見ればその音がどの鍵盤に対応するかは直ぐに分かります。このようにして一度この楽譜に慣れれば音符を常に直接読めるので、逆に非常にシンプルになるのがよく分かるはずです。また使い慣れてしまうと、元の方法に戻りたいとは、思わなくなるはずです。（詳細は4 4 ページの『楽譜が読みやすくなる理由』を参照して下さい。）

この1 2 音譜に慣れるにはやはり実際にこの楽譜で表された曲をよく弾いて見ることです。ホームページに（<http://km87290.web.fc2.com/htdocs/Japanese/page23.html#link-1>）曲の例を示してありますので参考にして下さい。

更に既発行本 2 冊にも練習用の曲が沢山ありますので、是非見て下さい。

既発行本とは以下の 2 冊です。

①『この楽譜なら、音楽はやさしい！』（夏山澄夫著：創栄出版）

②『音楽が身近になるやさしい新楽譜』（夏山澄夫著：本の泉社）

①と②は新しい楽譜について初めての人でも基本から分かるように説明されています。やさしく読むことが出来ます。またあらゆる調の曲が載っていますので、練習用として参考にして下さい。なお、これらの本は国内の公共図書館に多く蔵書になっていますので、こちらの方も活用して下さい。

☆☆ 1 2 の調がいつも連想される ☆☆

この新しい方式では 1 2 の調を同時に扱ってしまいます。ひとつの調だけでなく、常に 1 2 の調が関係しています。この 1 2 の調がいつも陰に見えてしまうため、はじめはやや混乱があるかもしれません。今までの方式ではこのようなことはありませんでした。1 2 の調を全体として捉える様にはなっていませんでしたし、全体として捉えることは出来ませんでした。

しかしこの新方式のように 1 2 の調が関係していることが念頭に浮かぶことは、ごく自然なことです。各調は常に同時に関連しているからです。今まで各調が独立しており、お互いに他の調が見えにくかったのはむしろ好ましくなかったことです。

慣れる為には先ずはひとつの特定の調だけに目をつけて行くのがよいのです。例えば 1 線白長調（ハ長調）だけを詳しく知るのが良いのです。どの調も基本的に同じことなので、他の調についても自然と身に付いて来るからです。つまり、特定の調を理解出来れば、その他の調も自動的に理解されていきます。従って弾き始める調は 1 線白長調である必要はなく、どの調でもよく、自分の好きな調から始めて、その調に慣れて行く事で全く問題ありません。

なお、新しく白調と黒調の2つが生じていますので、この点は慣れていく必要があります。白調は白調同士が同じ規則になり、黒調は黒調同士が同じ規則になります。それぞれが6種類ずつあり、合計12種類の調になります。

このようにして新しい方式に一度慣れてしまえば、＃と♭は馬鹿らしくて使っていられないと思うようになるはずです。

12音譜の基本的な規則（楽典）が知りたければ、次のページを参考にして下さい。

<http://km87290.web.fc2.com/htdocs/Japanese/page7.html> - link-1

開いたページの終わりの方にある“[12音譜楽典詳細](#)”のボタンをクリックすると、12音譜の基本的な規則を説明している文章を開くことが出来ます。

この本ではこの詳細説明までは行いませんので、今後も規則を再確認したいときは、いつでもこのページに跳ぶようにして下さい。

☆☆ [従来の白鍵盤と黒鍵盤の色を一部変更](#) ☆☆

鍵盤楽器の鍵の配列はハ長調向きになっています。ハ長調だけに分かりやすくなっているのです。そこで、これを次のように鍵の色を少し変えることで新しい鍵盤となり、ハ長調を離れて一般的な調を考えることがより易しくなります。新しい鍵盤はこの変更により応用が利く便利なものになっています。

新方式では白音、黒音や線音、間音が主体になります。つまり今までの鍵盤の見方を少し変えるとよいのです。この新しい鍵盤は白音、黒音や線音、間音の関係をより分かりやすいものにします。

次のページの図に従来の鍵盤と白黒の色を一部変更した鍵盤の図を示します。このようにすると、新しい鍵盤では12音の鍵の色が白6音と黒6音になり、白鍵盤と黒鍵盤が同じ数になります。また半音上がる毎に白鍵盤と黒鍵盤が交互に変わって行くものになります。

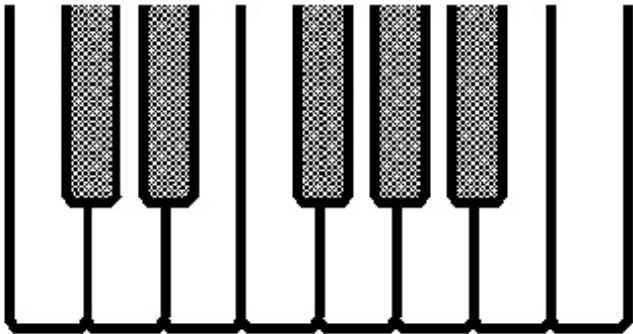


図1-1(a)
従来の鍵盤

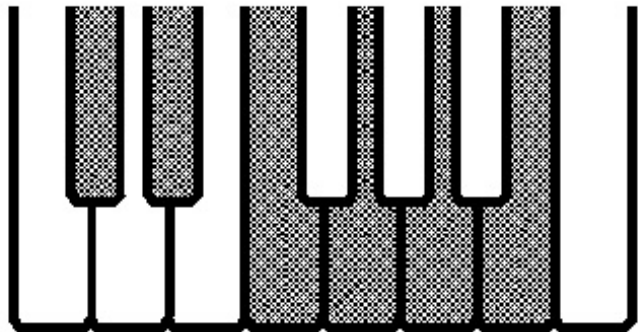


図1-1(b)
白黒の色を一部変更した鍵盤

☆☆ 五線譜と鍵盤の位置関係 ☆☆

この新しい鍵盤での五線譜における音符と鍵盤の位置関係を次に説明します。以下の図に五線譜の1線、2線、3線と対応する鍵盤を示します。

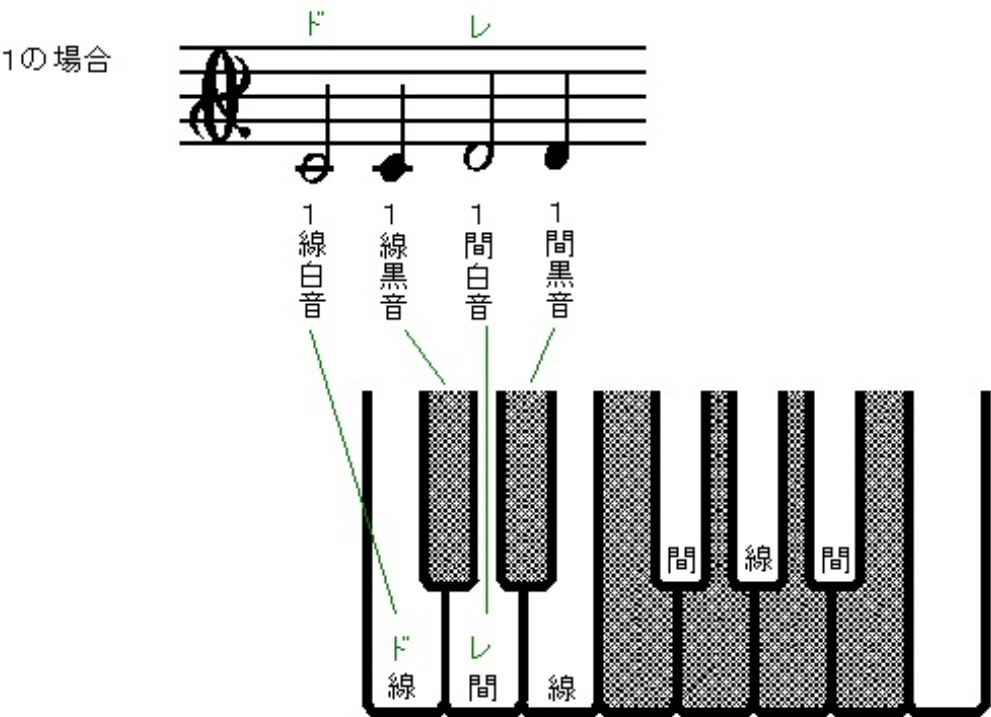


図1-2(a)

2の場合

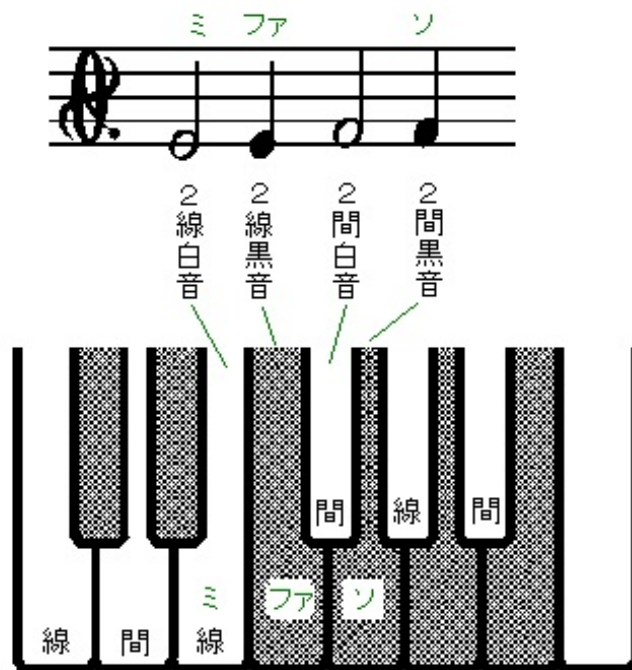


図1-2(b)

3の場合

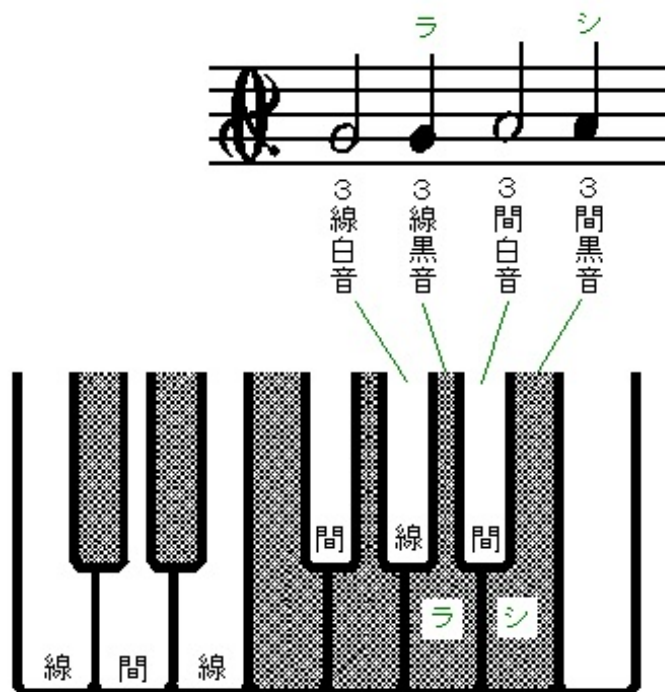


図1-2(c)

II. ドレミファソラシド

☆☆ ドレミファソラシドはこうなる ☆☆

この方式ではドレミファソラシドがどのようなになっているかを先ず説明します。1 2 音譜では次のような規則があります。

- ・ 白長調では
ドレミが白音符、ファソラシが黒音符

白長調には 1 線白長調、 1 間白長調、 2 線白長調、 2 間白長調、 3 線白長調、 3 間白長調の 6 種類があります。

- ・ 黒長調では
ドレミが黒音符、ファソラシが白音符

黒長調には 1 線黒長調、 1 間黒長調、 2 線黒長調、 2 間黒長調、 3 線黒長調、 3 間黒長調の 6 種類があります。

この合計 12 種類の調におけるドレミファソラシドの白音符と黒音符の色を表にまとめると次のようになります。

各調におけるドレミファソラシドの音符の色								
調の種類	ド	レ	ミ	ファ	ソ	ラ	シ	ド
1 線白長調	白	白	白	黒	黒	黒	黒	白
1 線黒長調	黒	黒	黒	白	白	白	白	黒
1 間白長調	白	白	白	黒	黒	黒	黒	白
1 間黒長調	黒	黒	黒	白	白	白	白	黒
2 線白長調	白	白	白	黒	黒	黒	黒	白
2 線黒長調	黒	黒	黒	白	白	白	白	黒
2 間白長調	白	白	白	黒	黒	黒	黒	白
2 間黒長調	黒	黒	黒	白	白	白	白	黒
3 線白長調	白	白	白	黒	黒	黒	黒	白
3 線黒長調	黒	黒	黒	白	白	白	白	黒
3 間白長調	白	白	白	黒	黒	黒	黒	白
3 間黒長調	黒	黒	黒	白	白	白	白	黒

図2-1

前頁の表で示された全ての調において、白黒の音符の色が新しい鍵盤における各鍵の色と全て合致しています。新しく決められた鍵盤の色がこのような便利なものになっている点に注目して下さい。

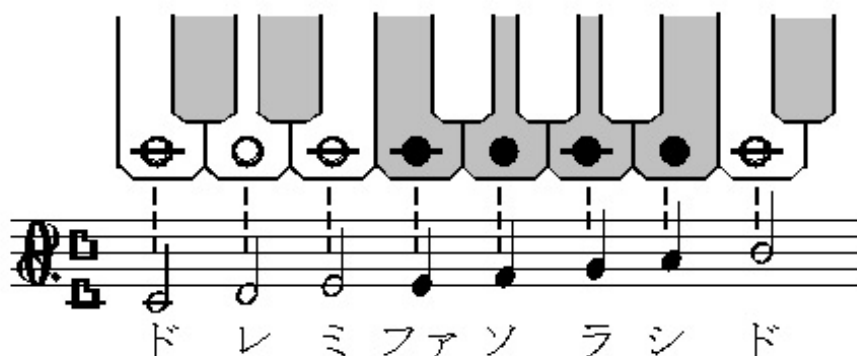
☆☆ 各調の説明 ☆☆

1 線白長調 (ハ長調)

A) ドレミファソラシド

ドレミファソラシドと鍵盤位置の対応は次の通りです。

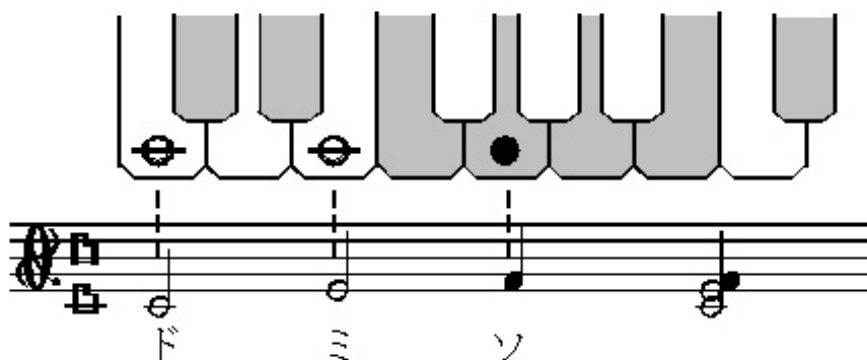
五線譜とドレミファソラシド



B) 和音 0、4、7

白長調のドミソの和音は白・白・黒です。つまり 1 線白長調のドミソの和音は次のようになります。

ドミソの和音の位置を示す鍵盤と音符

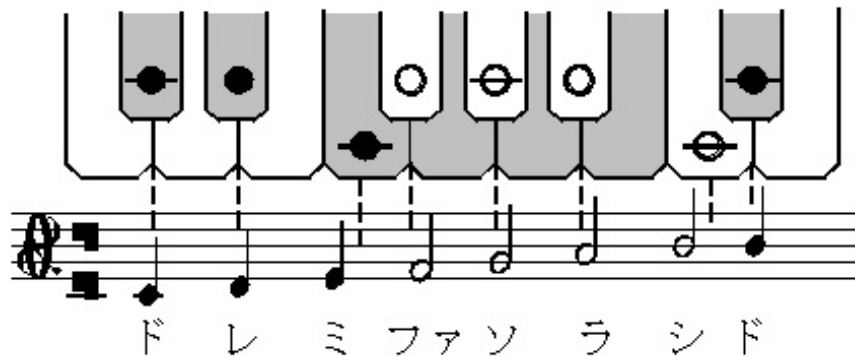


1 線黒長調

A) ドレミファソラシド

ドレミファソラシドと鍵盤位置の対応は次の通りです。

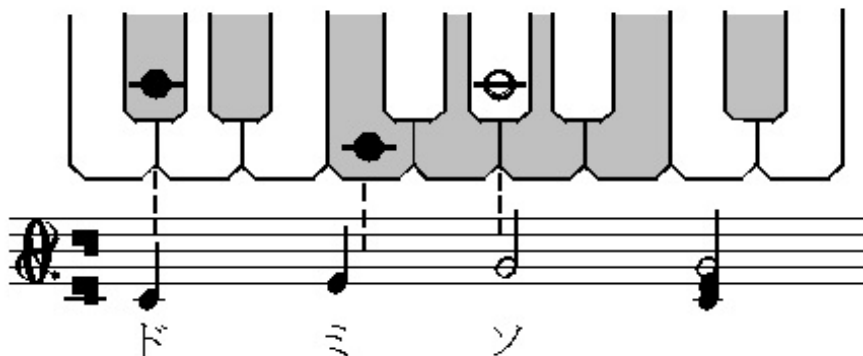
五線譜とドレミファソラシド



B) 和音 0、4、7

黒長調のドミソの和音は黒・黒・白です。つまり 1 線黒長調のドミソの和音は次のようになります。

ドミソの和音の位置を示す鍵盤と音符

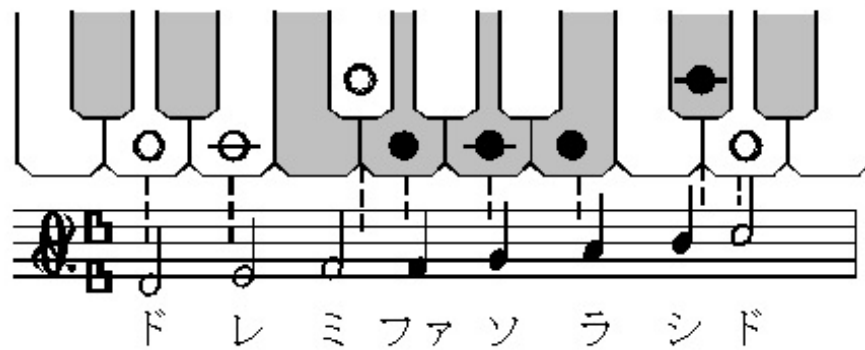


1 間白長調

A) ドレミファソラシド

ドレミファソラシドと鍵盤位置の対応は次の通りです。

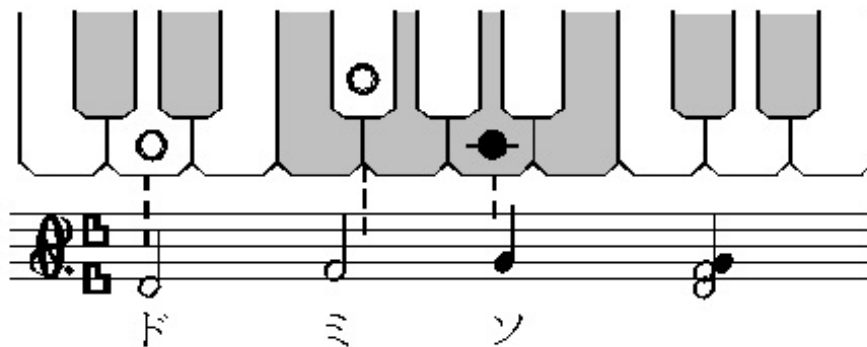
五線譜とドレミファソラシド



B) 和音 0、4、7

白長調のドミソの和音は白・白・黒です。つまり1間白長調のドミソの和音は次のようになります。

ドミソの和音の位置を示す鍵盤と音符



1 間黒長調

A) ドレミファソラシド

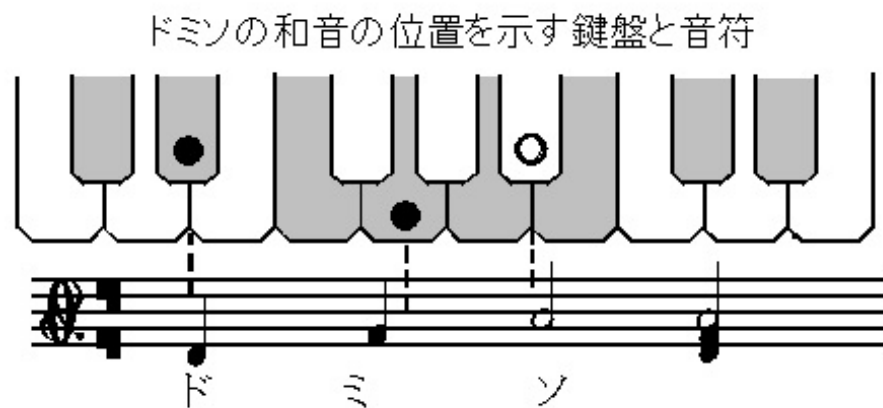
ドレミファソラシドと鍵盤位置の対応は次の通りです。

五線譜とドレミファソラシド



B) 和音 0、4、7

黒長調のドミソの和音は黒・黒・白です。つまり1間黒長調のドミソの和音は次のようになります。

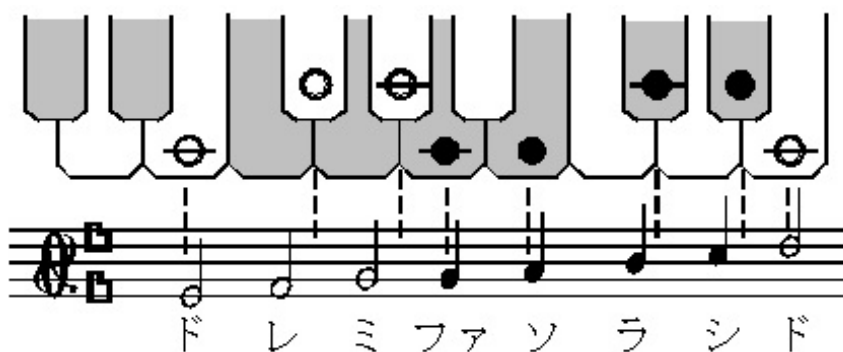


2 線白長調

A) ドレミファソラシド

ドレミファソラシドと鍵盤位置の対応は次の通りです。

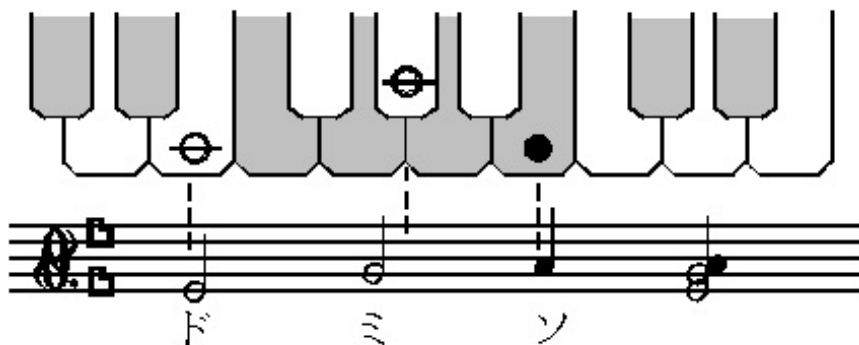
五線譜とドレミファソラシド



B) 和音 0、4、7

白長調のドミソの和音は白・白・黒です。つまり2線白長調のドミソの和音は次のようになります。

ドミソの和音の位置を示す鍵盤と音符

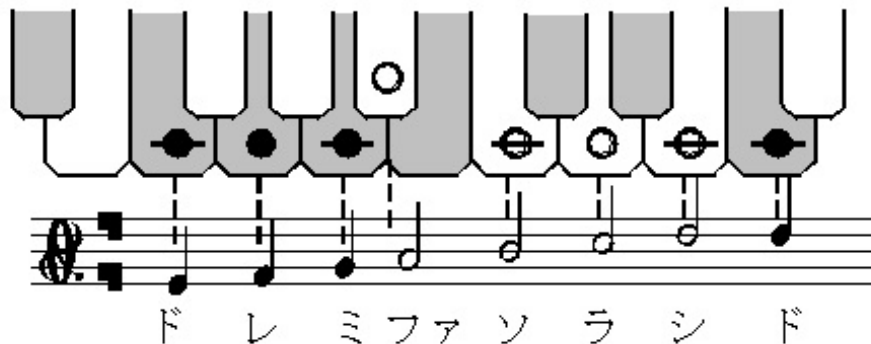


2 線黒長調

A) ドレミファソラシド

ドレミファソラシドと鍵盤位置の対応は次の通りです。

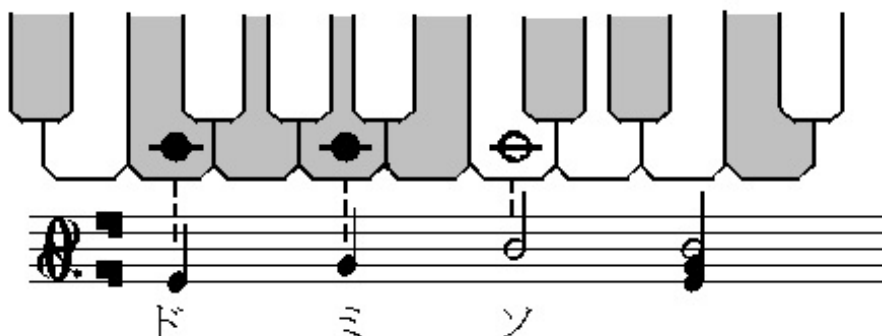
五線譜とドレミファソラシド



B) 和音 0、4、7

黒長調のドミソの和音は黒・黒・白です。つまり2線黒長調のドミソの和音は次のようになります。

ドミソの和音の位置を示す鍵盤と音符

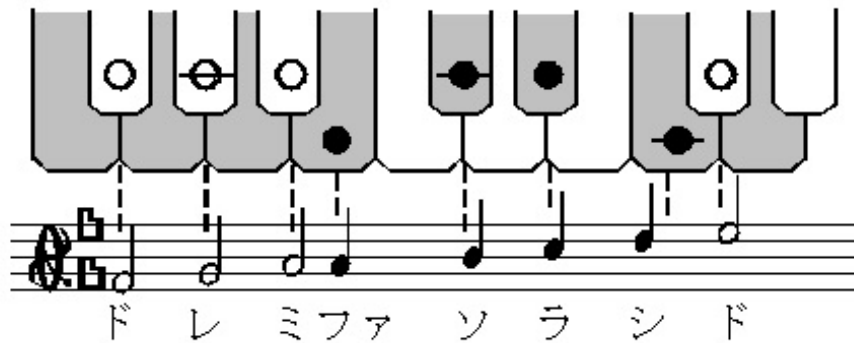


2 間白長調

A) ドレミファソラシド

ドレミファソラシドと鍵盤位置の対応は次の通りです。

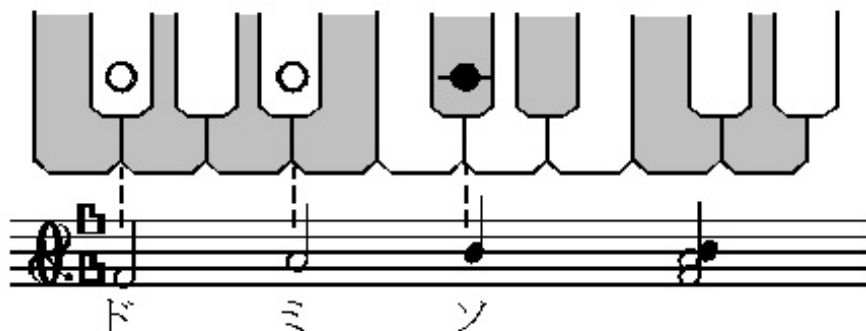
五線譜とドレミファソラシド



B) 和音 0、4、7

白長調のドミソの和音は白・白・黒です。つまり2間白長調のドミソの和音は次のようになります。

ドミソの和音の位置を示す鍵盤と音符

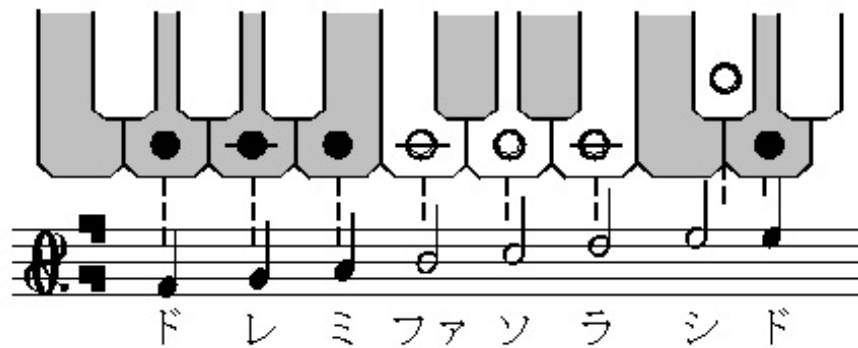


2 間黒長調

A) ドレミファソラシド

ドレミファソラシドと鍵盤位置の対応は次の通りです。

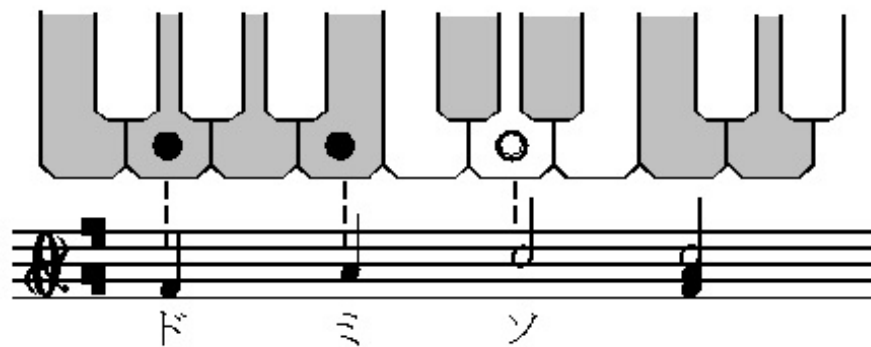
五線譜とドレミファソラシド



B) 和音 0、4、7

黒長調のドミソの和音は黒・黒・白です。つまり2間黒長調のドミソの和音は次のようになります。

ドミソの和音の位置を示す鍵盤と音符

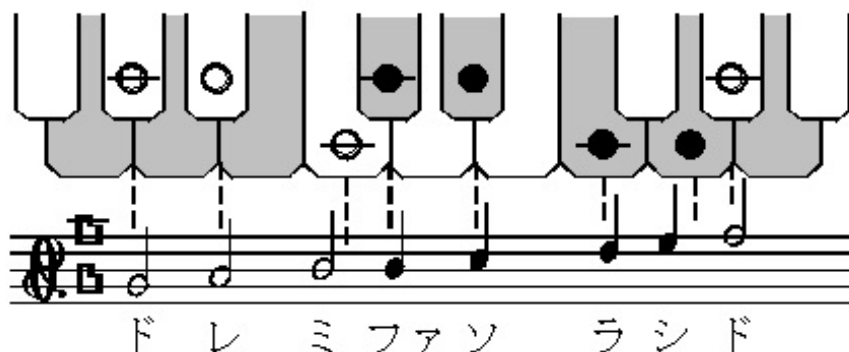


3線白長調

A) ドレミファソラシド

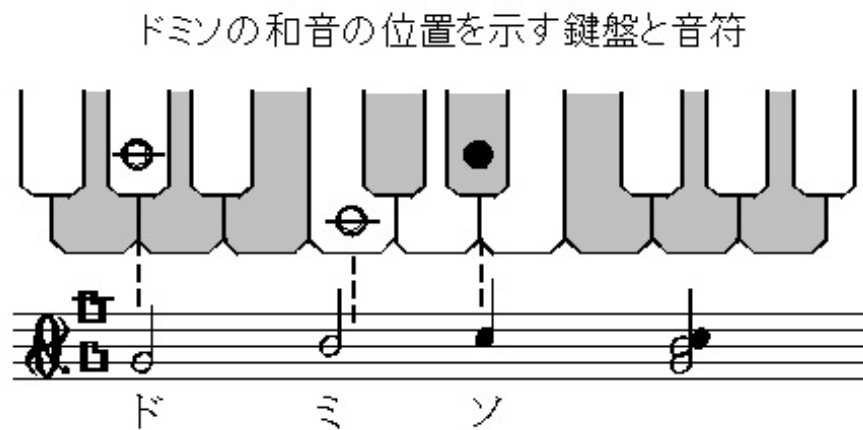
ドレミファソラシドと鍵盤位置の対応は次の通りです。

五線譜とドレミファソラシド



B) 和音 0、4、7

白長調のドミソの和音は白・白・黒です。つまり3線白長調のドミソの和音は次のようになります。

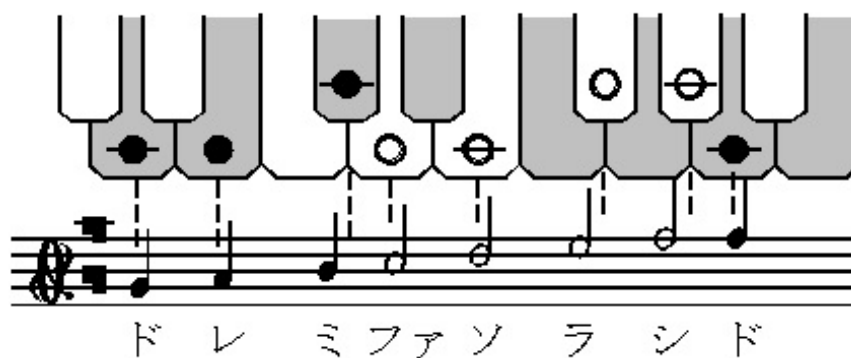


3線黒長調

A) ドレミファソラシド

ドレミファソラシドと鍵盤位置の対応は次の通りです。

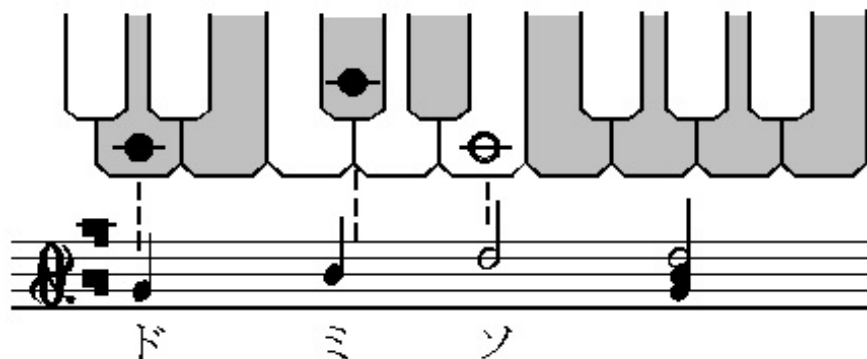
五線譜とドレミファソラシド



B) 和音 0、4、7

黒長調のドミソの和音は黒・黒・白です。つまり3線黒長調のドミソの和音は次のようになります。

ドミソの和音の位置を示す鍵盤と音符

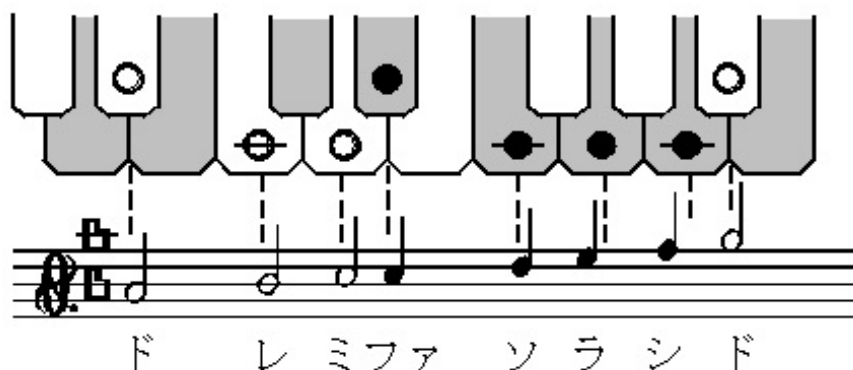


3 間白長調

A) ドレミファソラシド

ドレミファソラシドと鍵盤位置の対応は次の通りです。

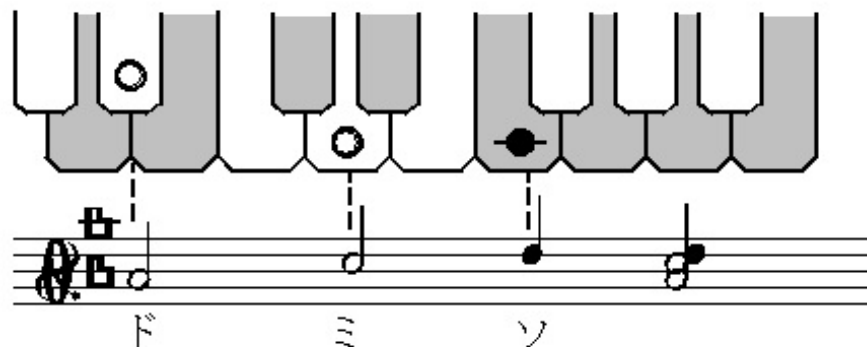
五線譜とドレミファソラシド



B) 和音 0、4、7

白長調のドミソの和音は白・白・黒です。つまり3間白長調のドミソの和音は次のようになります。

ドミソの和音の位置を示す鍵盤と音符

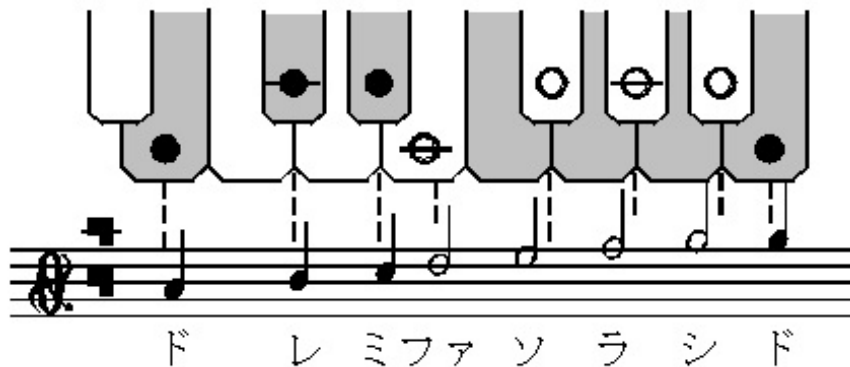


3 間黒長調

A) ドレミファソラシド

ドレミファソラシドと鍵盤位置の対応は次の通りです。

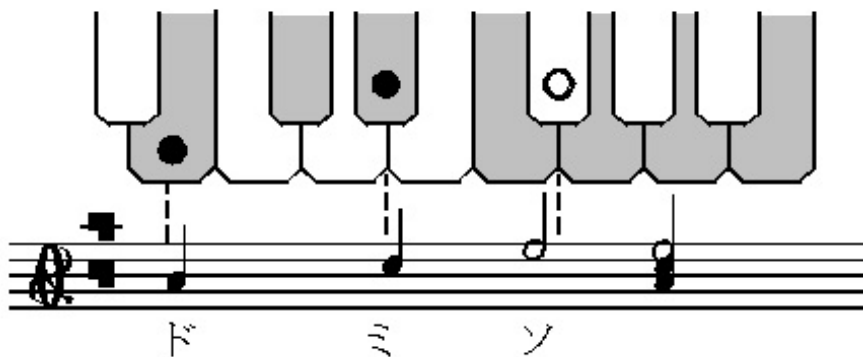
五線譜とドレミファソラシド



B) 和音 0、4、7

黒長調のドミソの和音は黒・黒・白です。つまり3間黒長調のドミソの和音は次のようになります。

ドミソの和音の位置を示す鍵盤と音符



☆☆ 1 2 音譜の例 ☆☆

ここで次に実際の楽譜の例としてシューマンの“トロイメライ”を掲載しておきます。

トロイメライ

R. Schumann, Op. 15, No. 7

M.M. ♩ = ♩ = 72

The musical score for 'Trojan March' (Troymärsch) by Robert Schumann, Op. 15, No. 7, is presented in five systems. The tempo is marked as M.M. ♩ = ♩ = 72. The score is in 2/4 time. The first system begins with a piano (p) dynamic. The second system features mezzo-forte (mf) and piano (p) dynamics, with a 'rit.' (ritardando) and 'a tempo' marking. The third system includes mezzo-forte (mf) and piano (p) dynamics. The fourth system includes 'rit.' and 'a tempo' markings. The fifth system includes piano (p) and pianissimo (pp) dynamics, with a 'rit.' marking. Pedal points are indicated throughout the score with 'Ped.' and asterisks.

☆☆ 短音階の場合 ☆☆

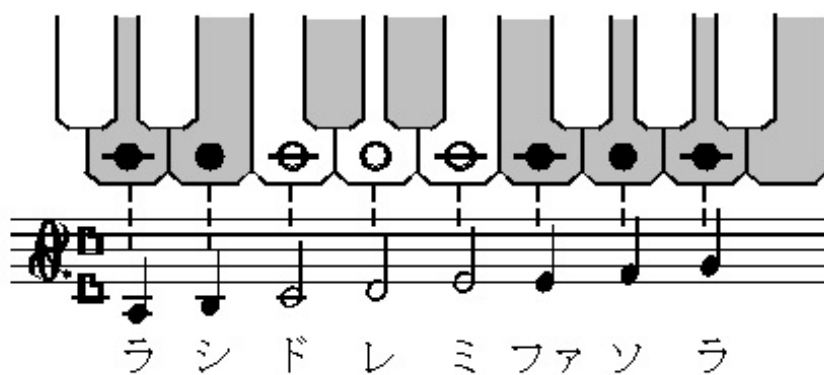
長音階の時と同様に短音階の場合も示しておきます。この音階はラシドレミファソラになります。

3線黒短調（イ短調）

A) ラシドレミファソラ

ラシドレミファソラと鍵盤位置の対応は次の通りです。

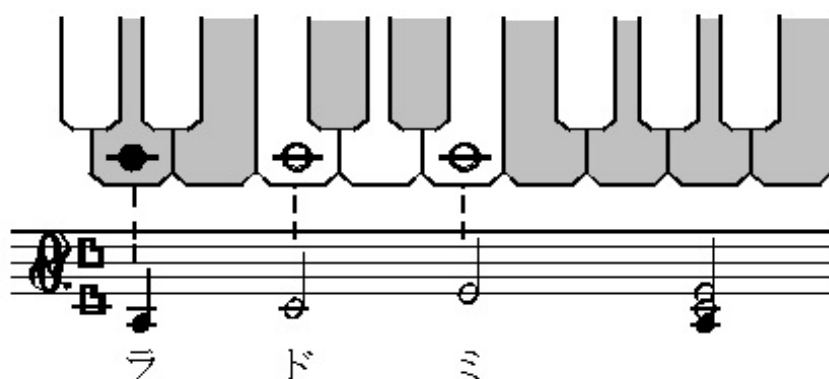
五線譜とラシドレミファソラ



B) 和音 0、3、7

黒短調のラドミの和音は黒・白・白です。つまり3線黒短調のラドミの和音は次のようになります。

ラドミの和音の位置を示す鍵盤と音符

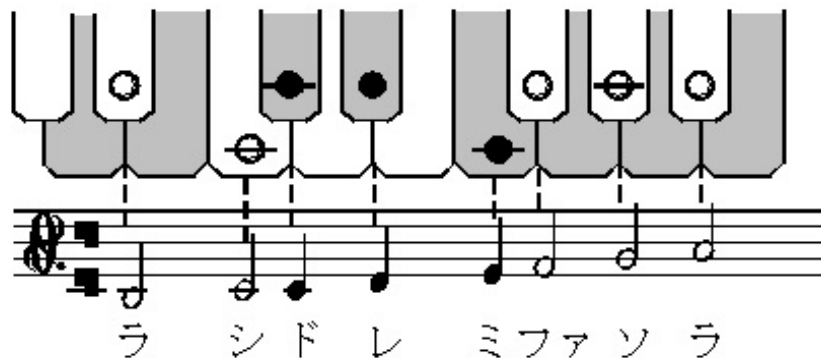


3 間白短調

A) ラシドレミファソラ

ラシドレミファソラと鍵盤位置の対応は次の通りです。

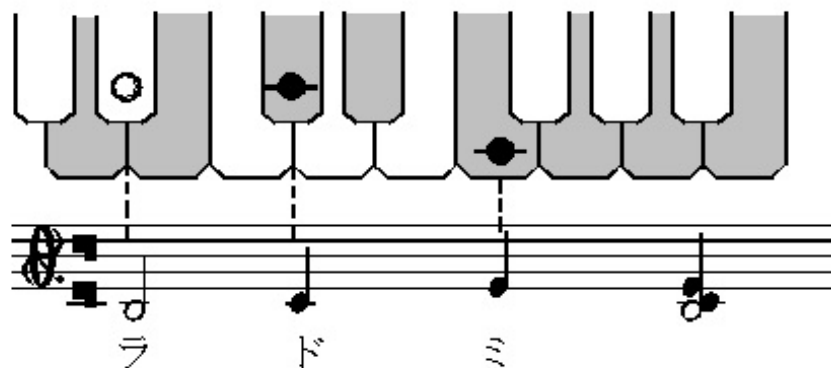
五線譜とラシドレミファソラ



B) 和音 0、3、7

白短調のラドミの和音は白・黒・黒です。つまり3間白短調のラドミの和音は次のようになります。

ラドミの和音の位置を示す鍵盤と音符

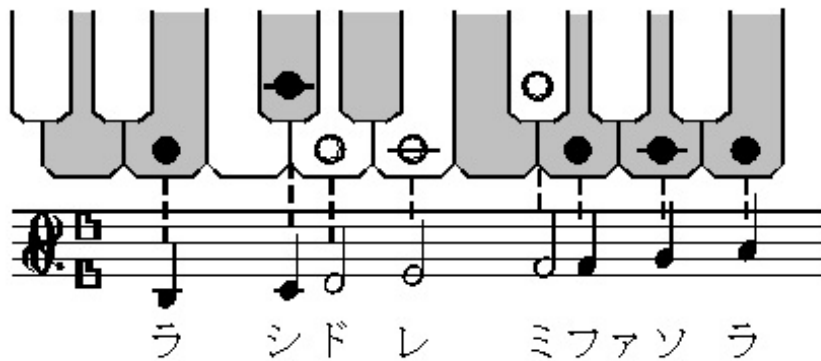


3 間黒短調

A) ラシドレミファソラ

ラシドレミファソラと鍵盤位置の対応は次の通りです。

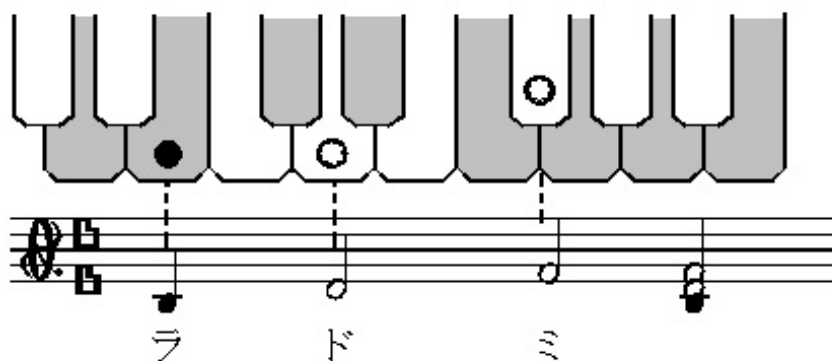
五線譜とラシドレミファソラ



B) 和音 0、3、7

黒短調のラドミの和音は黒・白・白です。つまり3間黒短調のラドミの和音は次のようになります。

ラドミの和音の位置を示す鍵盤と音符

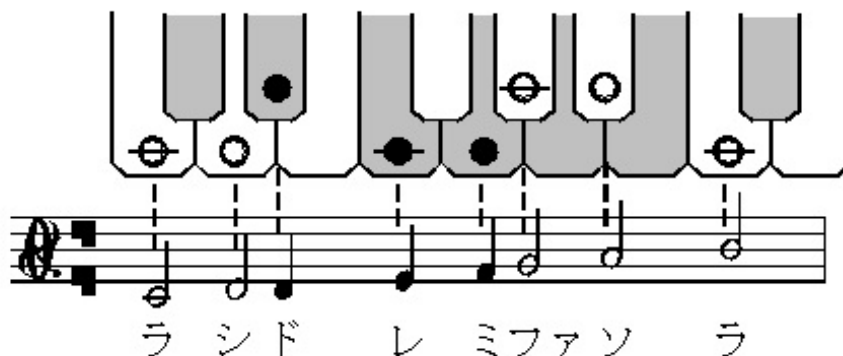


1 線白短調

A) ラシドレミファソラ

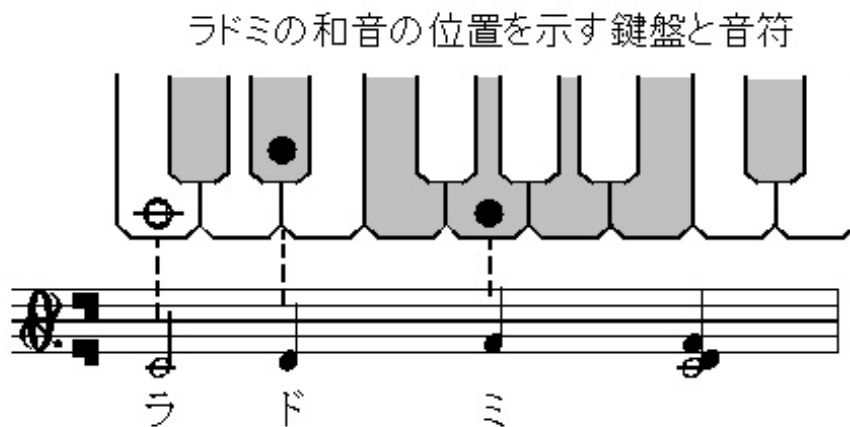
ラシドレミファソラと鍵盤位置の対応は次の通りです。

五線譜とラシドレミファソラ



B) 和音 0、3、7

白短調のラドミの和音は白・黒・黒です。つまり 1 線白短調のラドミの和音は次のようになります。

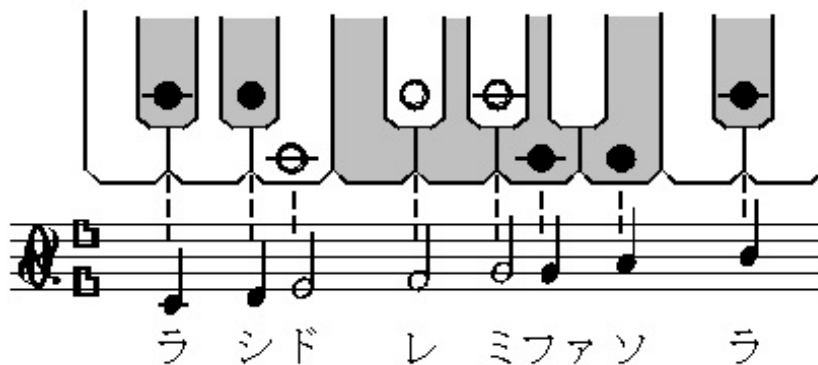


1 線黒短調

A) ラシドレミファソラ

ラシドレミファソラと鍵盤位置の対応は次の通りです。

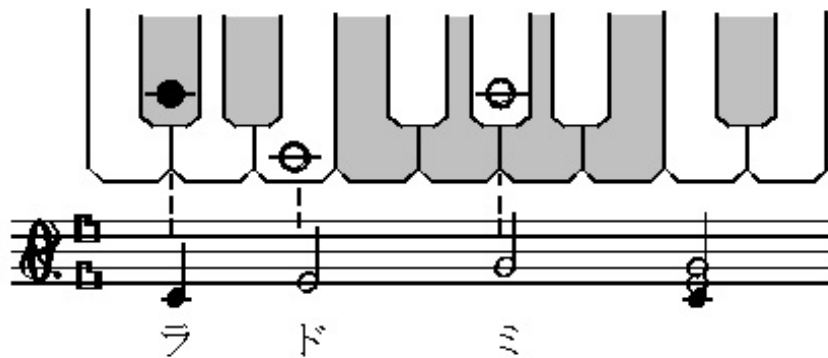
五線譜とラシドレミファソラ



B) 和音 0、3、7

黒短調のラドミの和音は黒・白・白です。つまり 1 線黒短調のラドミの和音は次のようになります。

ラドミの和音の位置を示す鍵盤と音符

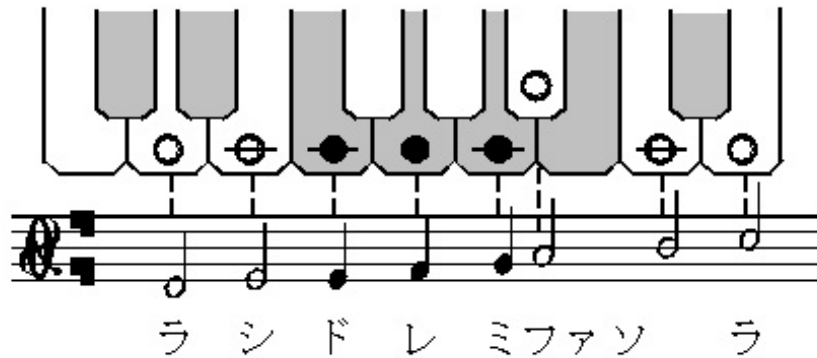


1 間白短調

A) ラシドレミファソラ

ラシドレミファソラと鍵盤位置の対応は次の通りです。

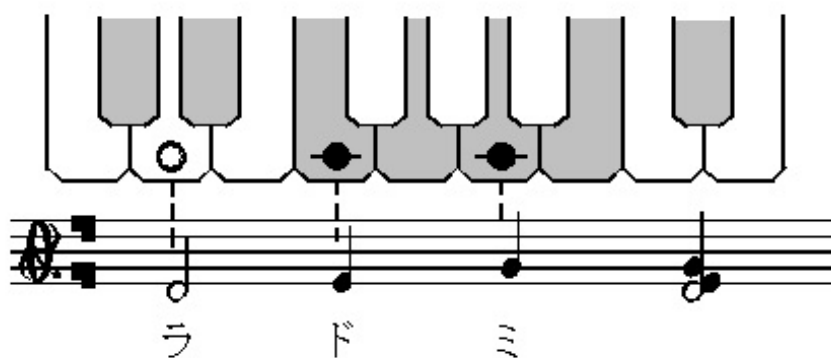
五線譜とラシドレミファソラ



B) 和音 0、3、7

白短調のラドミの和音は白・黒・黒です。つまり 1 間白短調のラドミの和音は次のようになります。

ラドミの和音の位置を示す鍵盤と音符

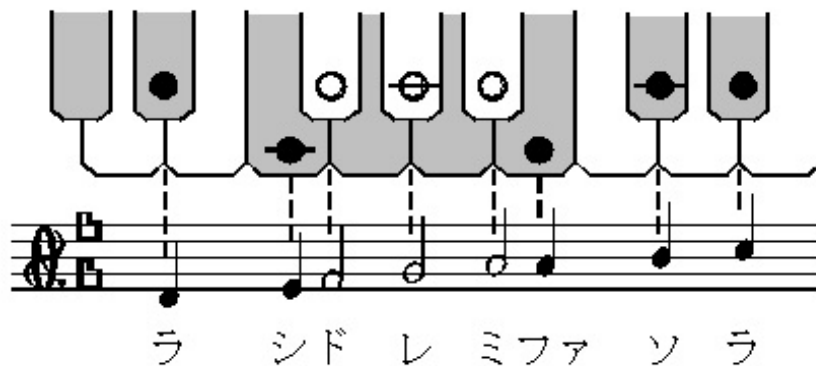


1 間黒短調

A) ラシドレミファソラ

ラシドレミファソラと鍵盤位置の対応は次の通りです。

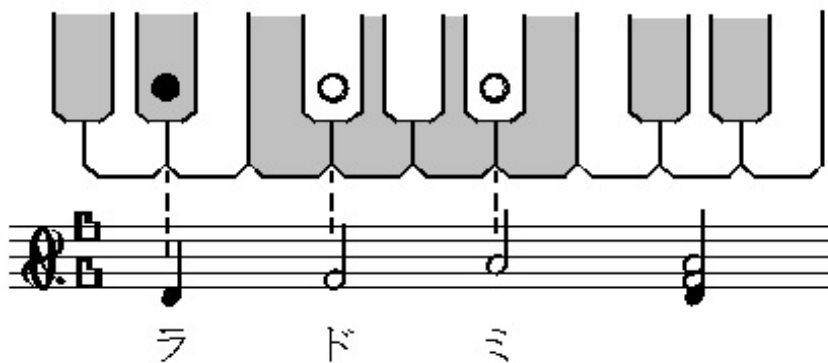
五線譜とラシドレミファソラ



B) 和音 0、3、7

黒短調のラドミの和音は黒・白・白です。つまり1間黒短調のラドミの和音は次のようになります。

ラドミの和音の位置を示す鍵盤と音符

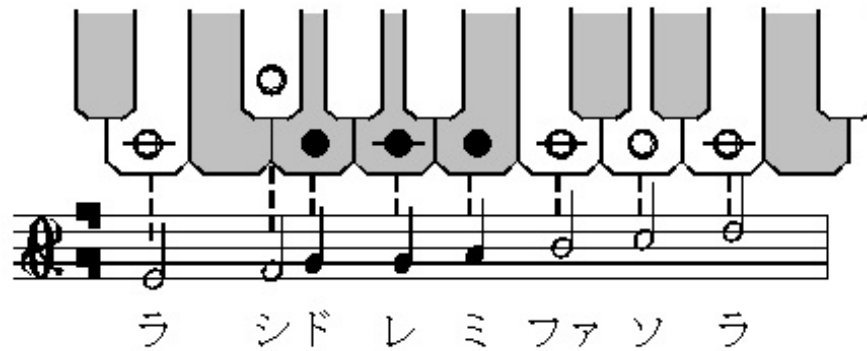


2 線白短調

A) ラシドレミファソラ

ラシドレミファソラと鍵盤位置の対応は次の通りです。

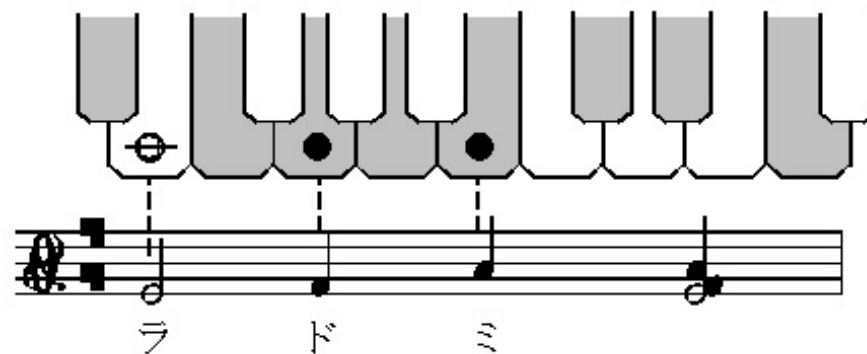
五線譜とラシドレミファソラ



B) 和音 0、3、7

白短調のラドミの和音は白・黒・黒です。つまり2線白短調のラドミの和音は次のようになります。

ラドミの和音の位置を示す鍵盤と音符

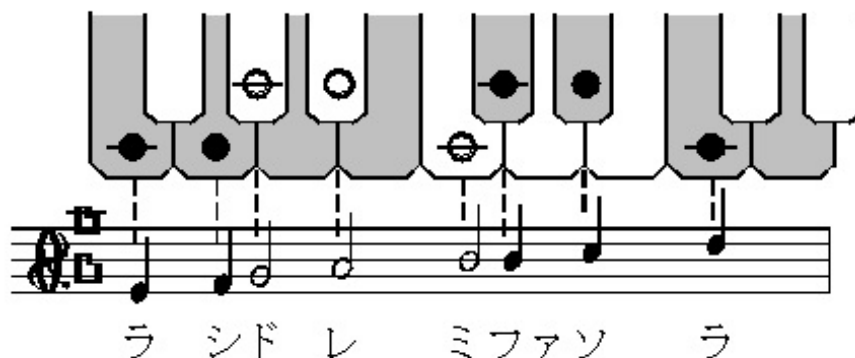


2線黒短調

A) ラシドレミファソラ

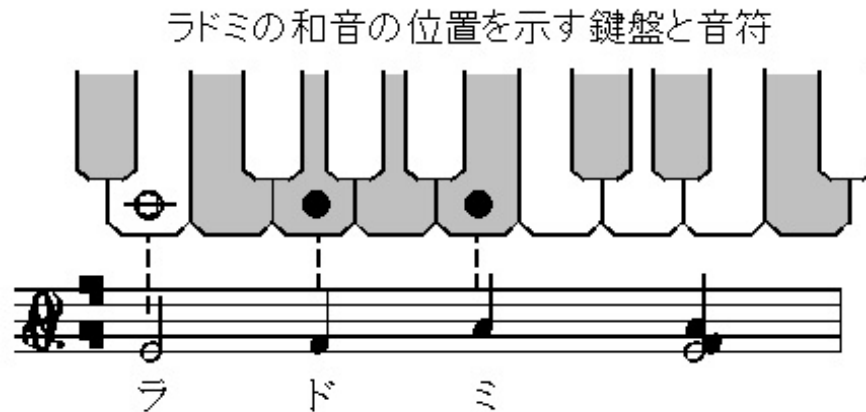
ラシドレミファソラと鍵盤位置の対応は次の通りです。

五線譜とラシドレミファソラ



B) 和音 0、3、7

黒短調のラドミの和音は黒・白・白です。つまり2線黒短調のラドミの和音は次のようになります。

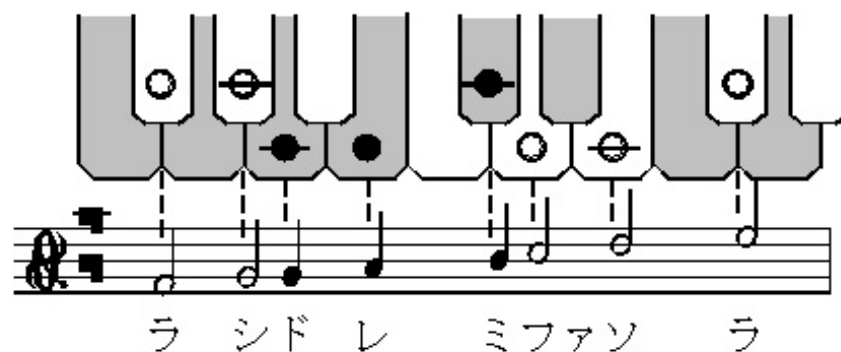


2 間白短調

A) ラシドレミファソラ

ラシドレミファソラと鍵盤位置の対応は次の通りです。

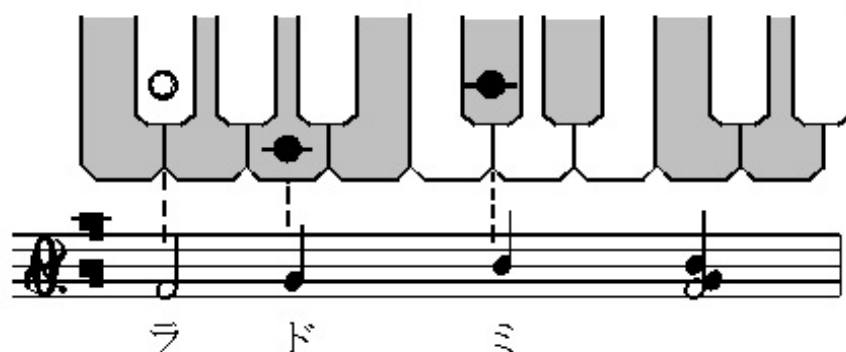
五線譜とラシドレミファソラ



B) 和音 0、3、7

白短調のラドミの和音は白・黒・黒です。つまり2間白短調のラドミの和音は次のようになります。

ラドミの和音の位置を示す鍵盤と音符

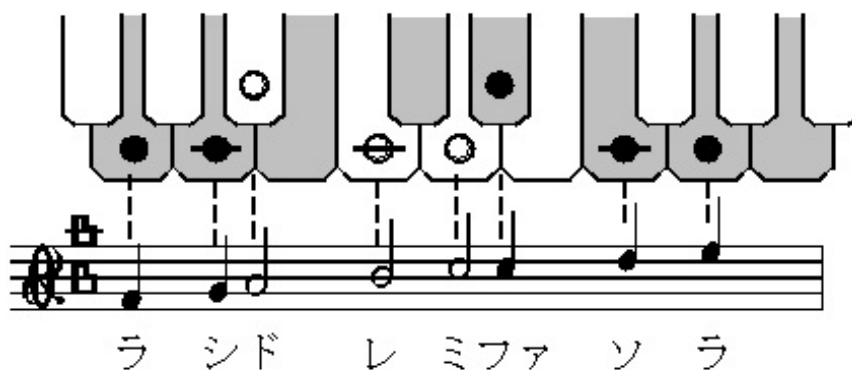


2 間黒短調

A) ラシドレミファソラ

ラシドレミファソラと鍵盤位置の対応は次の通りです。

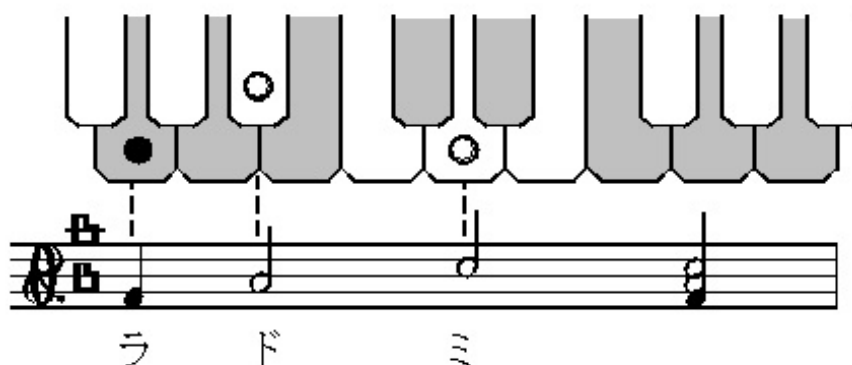
五線譜とラシドレミファソラ



B) 和音 0、3、7

黒短調のラドミの和音は黒・白・白です。つまり2間黒短調のラドミの和音は次のようになります。

ラドミの和音の位置を示す鍵盤と音符

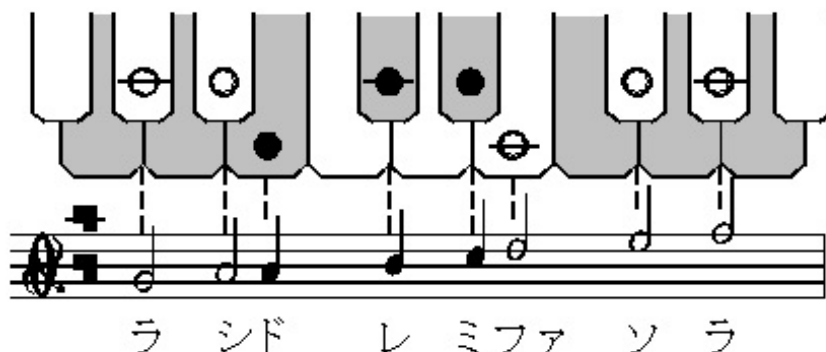


3 線白短調

A) ラシドレミファソラ

ラシドレミファソラと鍵盤位置の対応は次の通りです。

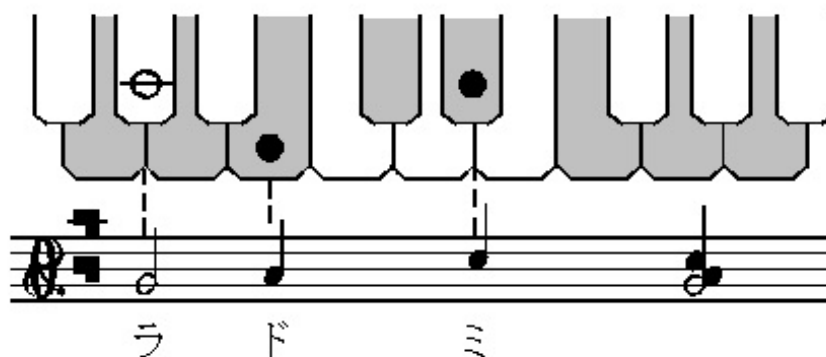
五線譜とラシドレミファソラ



B) 和音 0、3、7

白短調のラドミの和音は白・黒・黒です。つまり 3 線白短調のラドミの和音は次のようになります。

ラドミの和音の位置を示す鍵盤と音符



III. 和音

☆☆ 和音の成り立ち ☆☆

ここで和音構成について説明します。この方式では和音が視覚的によく見えることになります。調に関係なく、更に五線譜における音符の位置に関係なく、和音が常に直視的に見えているので、和音の進行を知ることが出来ます。

ドミソ（長音階）の和音は半音数で0 4 7であり、ラドミ（短音階）の和音は半音数で0 3 7となります。

和音の音の配列は長音階、短音階に対して、それぞれ次の2つの場合があります。白調、黒調と長音階、短音階の音符の配列図は次のようになります。

白長調のドミソの和音

0 4 7



黒長調のドミソの和音

0 4 7



白短調のラドミの和音

0 3 7



黒短調のラドミの和音

0 3 7



図3-1

☆☆ 転調と和音の繋がり ☆☆

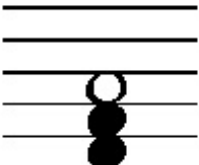
1) 転調と和音

転調における和音進行の繋がりには次のページのように図示されます。これらの和音は7半音毎の上行・下行の繋がりになっています。

和音の繋がり



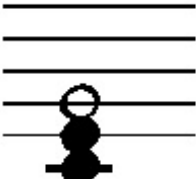
3間白長調
シン



1間黒長調
アン



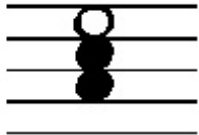
3線白長調
リン



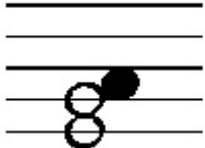
1線黒長調
バン



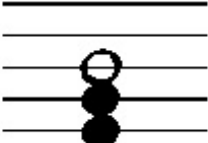
2間白長調
セン



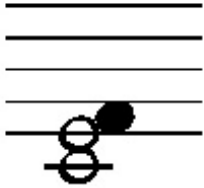
3間黒長調
イン



2線白長調
レン



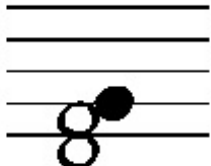
2線黒長調
ベン



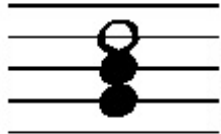
1線白長調
ラン



2間黒長調
エン



2間白長調
サン



3線黒長調
ビン

長音階の和音

図3-2

2) 短音階和音の繋がり

短音階の和音の繋がりも同様に次のページに示しておきます。

短音階和音の繋がり

2間黒短調
エン

1線白短調
ラン

2線黒短調
ベン

3間白短調
シン

1間黒短調
アン

1間白短調
サン

3線黒短調
ビン

2線白短調
レン

3間黒短調
イン

2間白短調
セン

1線黒短調
パン

短音階の和音

図3-3

☆☆ 特別な和音の説明 ☆☆

1) 1 0 の和音

ドミソに 1 0 半音の音を加えられた和音です。つまり、0、4、7、1 0 となります。次に 1 2 種類のこの和音を図示しておきます。

(この和音は従来から属 7 の和音と言っているものです。)

1 0 の和音

白調



黒調



図3-4

各和音に対して夫々の音がどの鍵盤に対応しているのか確認してみてください。

2) 3 半音間隔の和音

これは×3 の和音と言います。半音数が 3 の倍数になっています。つまり×3 で表わせます。すなわち半音数は 0、3、6、9 となります。

この和音はその他の 2 つの半音数である 1、4、7、1 0 と 2、5、8、1 1 と合わせて 3 種類の和音に実際には限られます。1 2 の調の内、4 つの調ずつ同じ和音になります。

(この和音は従来から diminished と言っているものです。)

3 半音間隔の和音

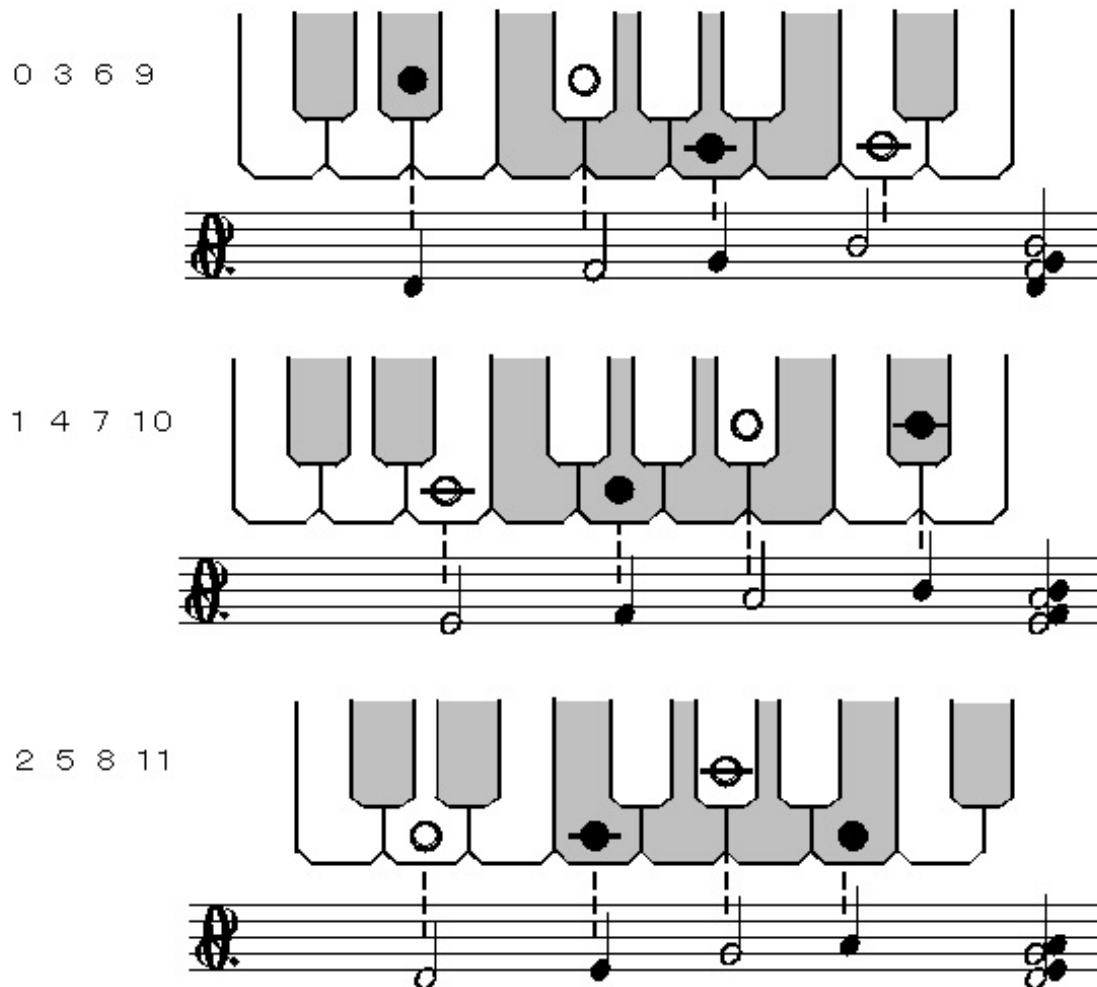


図3-5

3) 4 半音間隔の和音

これは×4の和音と言います。半音数が4の倍数になっています。すなわち半音数は0、4、8となります。

この和音はその他の3つの半音数である1、5、9と2、6、10と3、7、11と合わせて4種類の和音に実際上は限られます。12の調の内、3つの調ずつ同じ和音になります。

(この和音は従来からaugmentedと言っているものです。)

4 半音間隔の和音

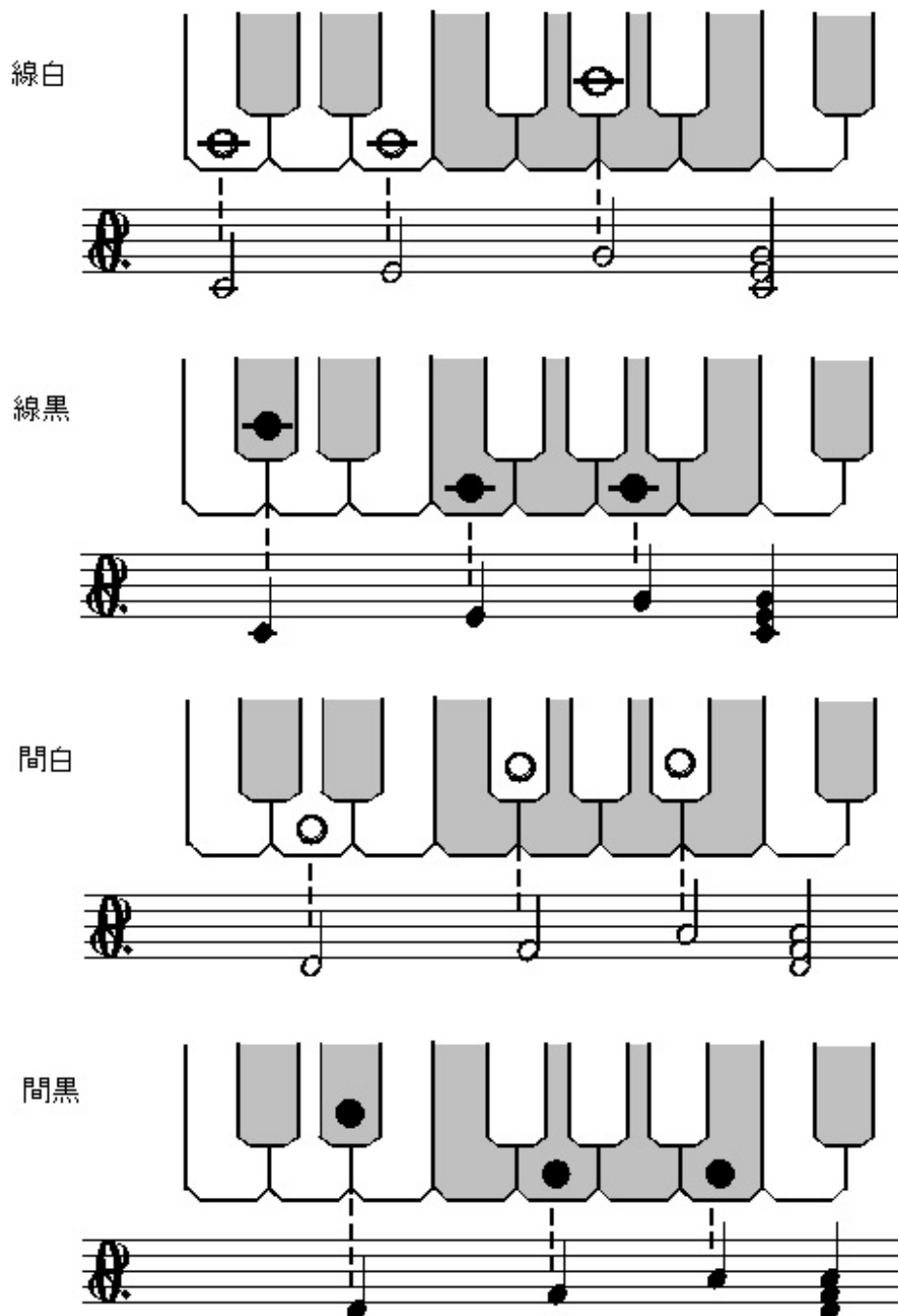


図3-6

4) その他の和音

その他の和音の構成については“音楽に♯・♭は全く必要ありません（中巻）”（<http://p.booklog.jp/book/27712>）の87ページを参照して下さい。各種和音の構成の半音数表示があります。

IV. 楽譜に慣れるには

☆☆ 2音の位置を憶える ☆☆

楽譜に慣れるには2音の位置を憶えるのがよいです。新しい楽譜は五線譜にある音符の位置と鍵盤の対応が非常にシンプルになっています。既に記しているようにこれは調に関係なく、どの調であっても音符の位置と鍵盤の対応は同じものになるからです。従って、音符の位置と鍵盤の対応を一度憶えてしまえば、どの曲の場合でもこれが応用出来ます。この為楽譜を見たら何時でも、自然と指が鍵盤に機械的に向かうようになります。

特に五線譜上の2音の音符を見たら、調や前後関係に係わらず、瞬時にその音符に対応している2つの鍵盤を弾けばよいことになり、種々の2音を記憶しておくと便利です。2音を記憶すると、3音、4音、5音と和音の音の数が増えても、別の2音が同じように連想されるために直ぐに応用が利き、同様に記憶出来ていることになり、増えたことによる問題は起きません。このように2音を先ず憶えると良いのです。

この元になる2音を次に示しておきます。これを直ぐに憶えるのは難しいですが、実際に曲を弾いていれば、自動的に憶えて行くことになります。

2音と言ってもその組み合わせは非常に多くなってしまいますので、2半音またはそれより多い音程差のある2音について説明します。

1) オクターブ内の2音の関係

はじめにオクターブ内の2音の関係を説明します。2音はオクターブ内で2種類があります。例えば3半音は9半音とも関連があります。0半音－3半音の関係は3半音－12半音の関係と関連します。同様に4半音は8半音と関連します。この2種類の2音を1つのまとまりと捉えるとよいです。

次のページに3半音音程と9半音音程の関係の図を示します。

オクターブ異なる2音

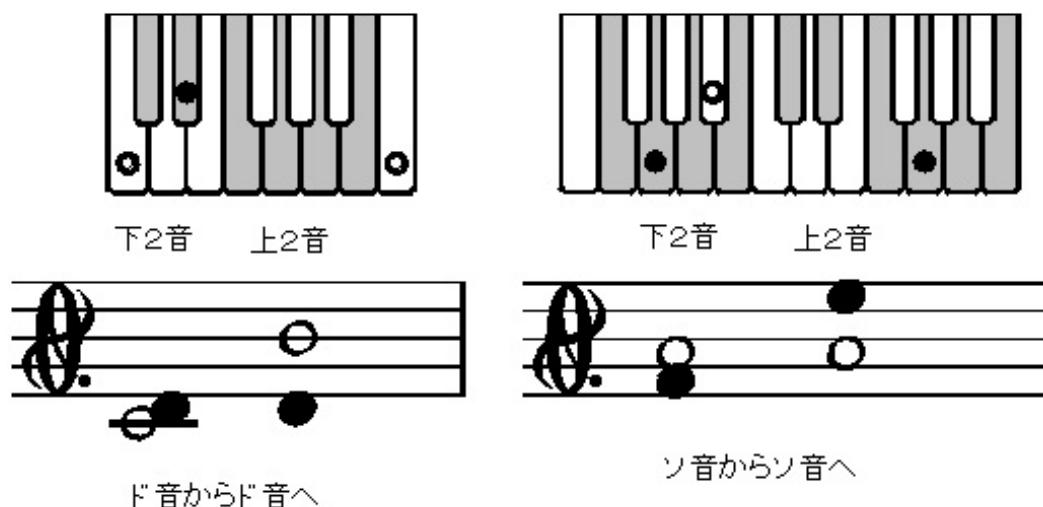


図4-1

2) 2音の組み合わせ

2音と言っても、特に2半音以上の音程差の2音に注目します。従って、

- ① 2半音音程と10半音音程
- ② 3半音音程と9半音音程
- ③ 4半音音程と8半音音程
- ④ 5半音音程と7半音音程
- ⑤ 6半音音程と6半音音程

について扱うことになります。

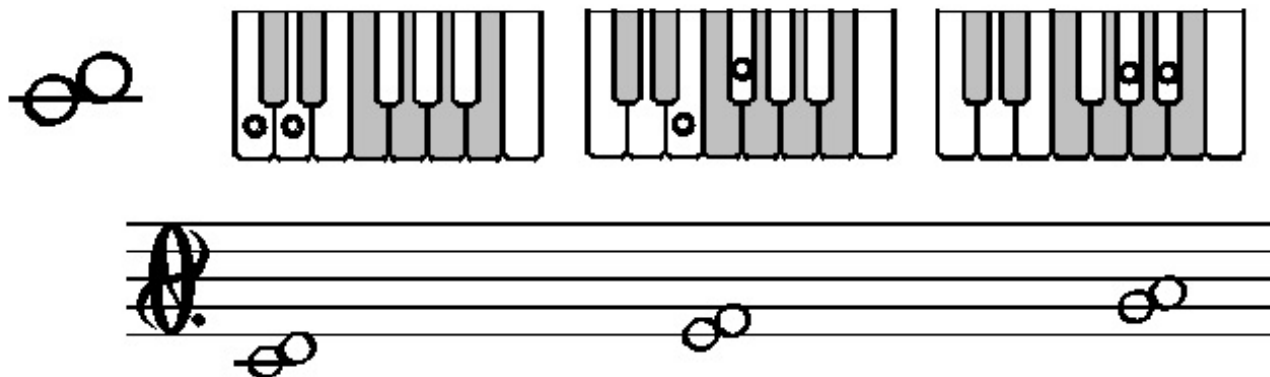
既に上で述べているように、これら2音の組み合わせの数は多いですが、何曲か弾くうちに同じものが何度も出て来るのが分かり、覚えやすいです。これら2音の組み合わせを憶えればどの調のどの曲を弾く場合でもこれらが直ぐに役立ちます。

更に言うなら、これら2音を初めから憶えるようにするのは弾く上で上達の早道になります。従って出来るだけ、早目に憶えてしまった方がよいとも言えます。

① 2半音音程

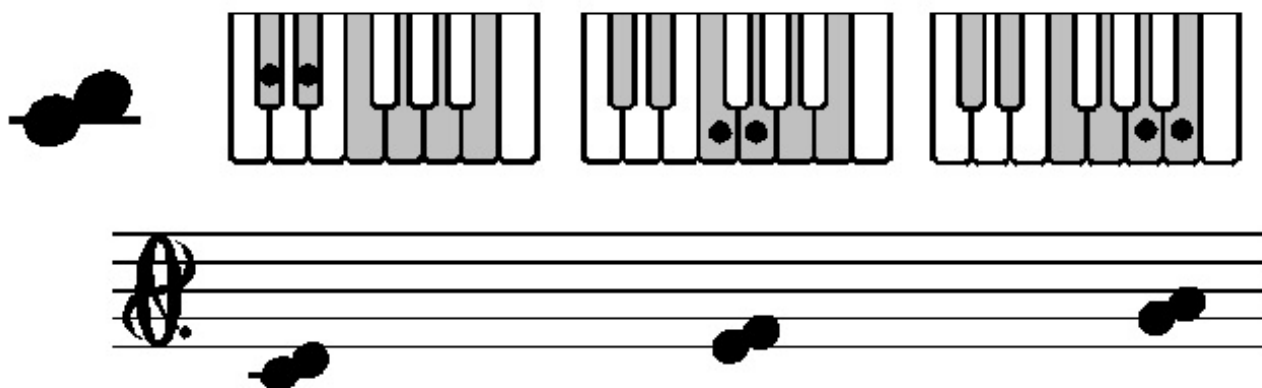
- ・ 線白音と間白音

2 半音音程の 2 音と対応する鍵盤



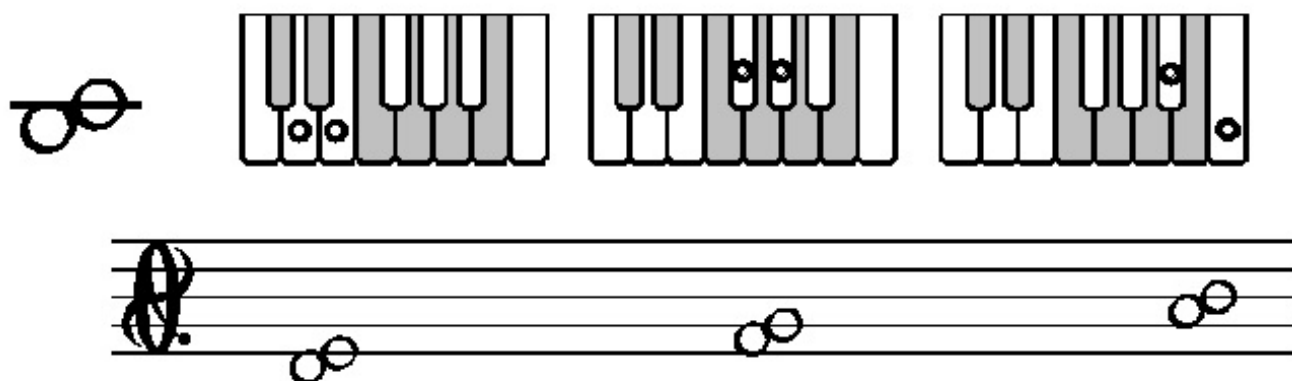
・ 線黒音と間黒音

2 半音音程の 2 音と対応する鍵盤



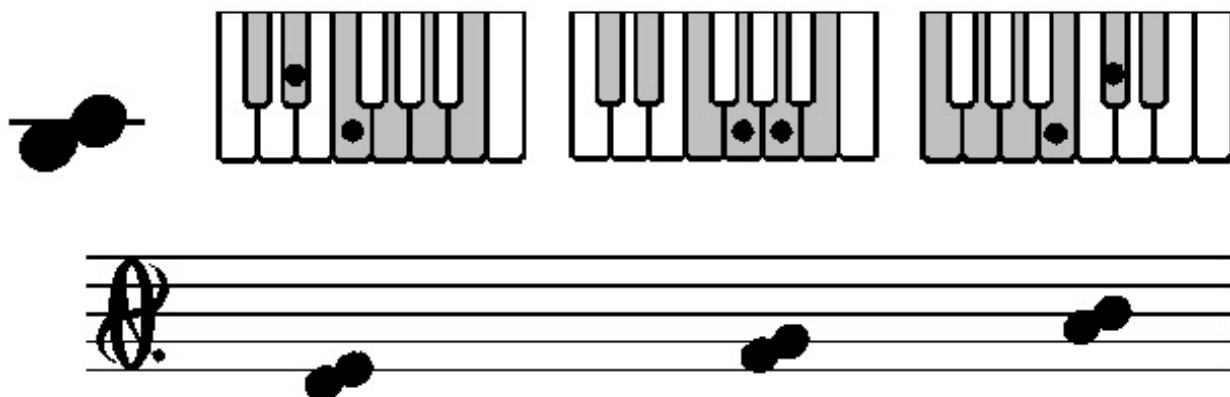
・ 間白音と線白音

2 半音音程の 2 音と対応する鍵盤



・ 間黒音と線黒音

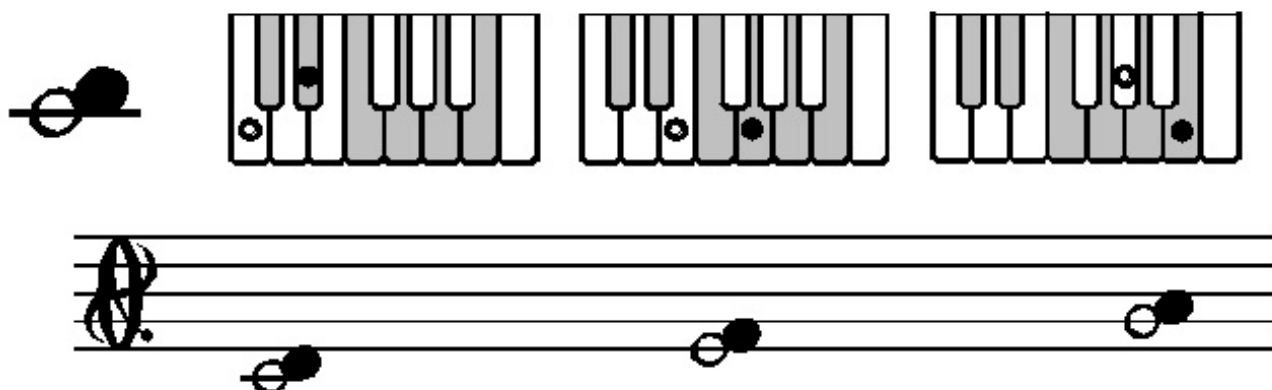
2 半音音程の 2 音と対応する鍵盤



② 3 半音音程

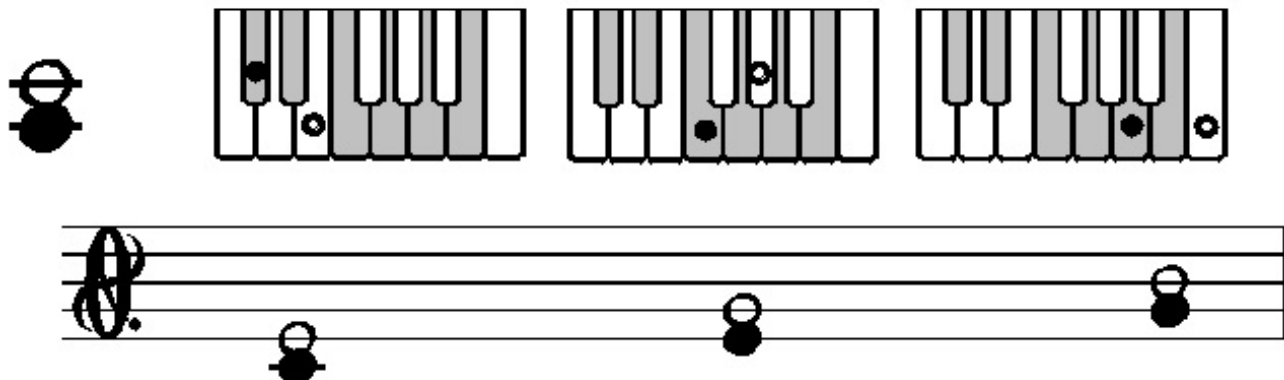
・ 線白音と間黒音

3 半音音程の 2 音と対応する鍵盤



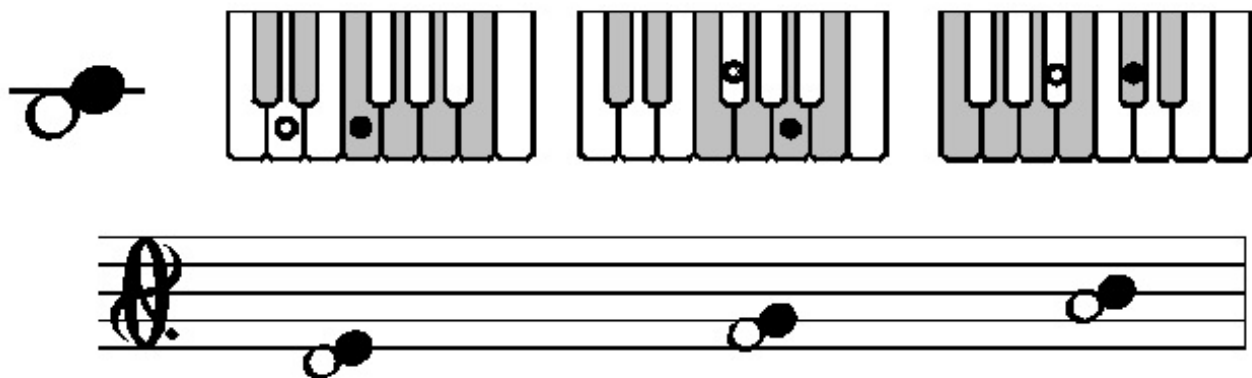
・ 線黒音と線白音

3 半音音程の 2 音と対応する鍵盤



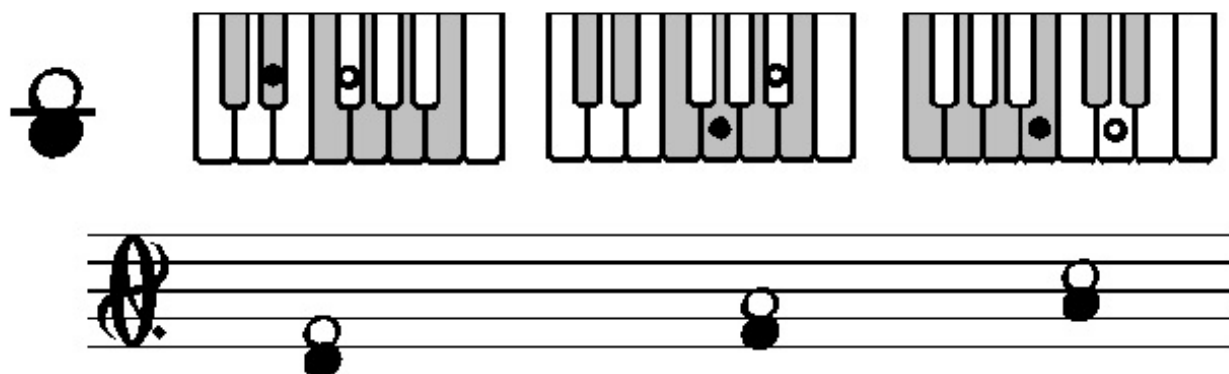
・ 間白音と線黒音

3 半音音程の 2 音と対応する鍵盤



・ 間黒音と間白音

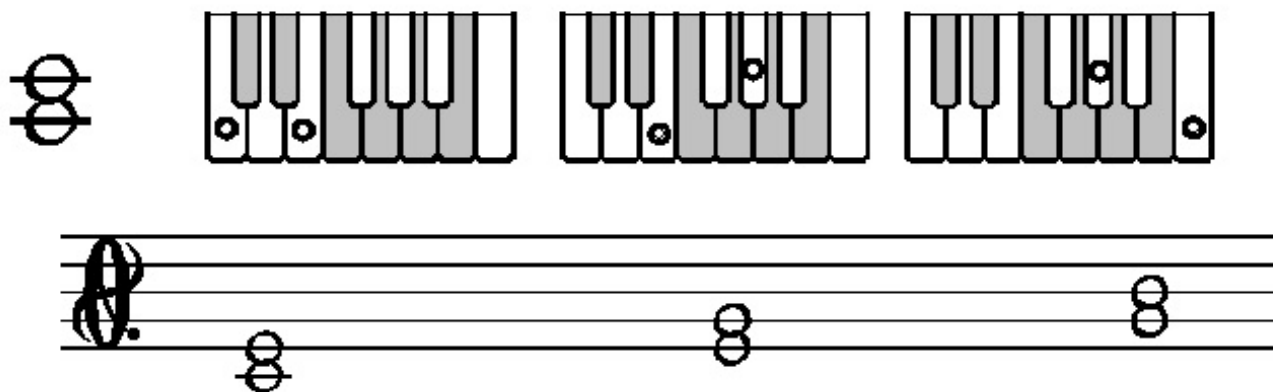
3 半音音程の 2 音と対応する鍵盤



③ 4 半音音程

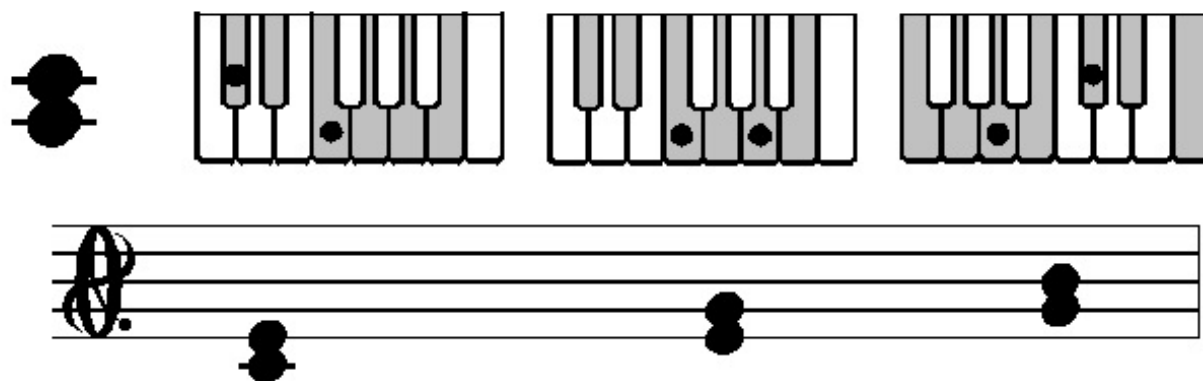
・ 線白音と線白音

4 半音音程の 2 音と対応する鍵盤



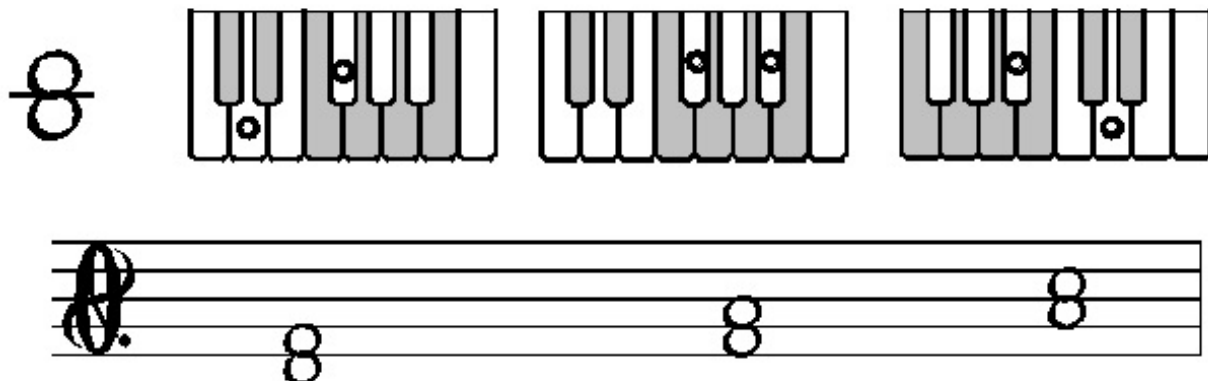
・ 線黒音と線黒音

4 半音音程の 2 音と対応する鍵盤



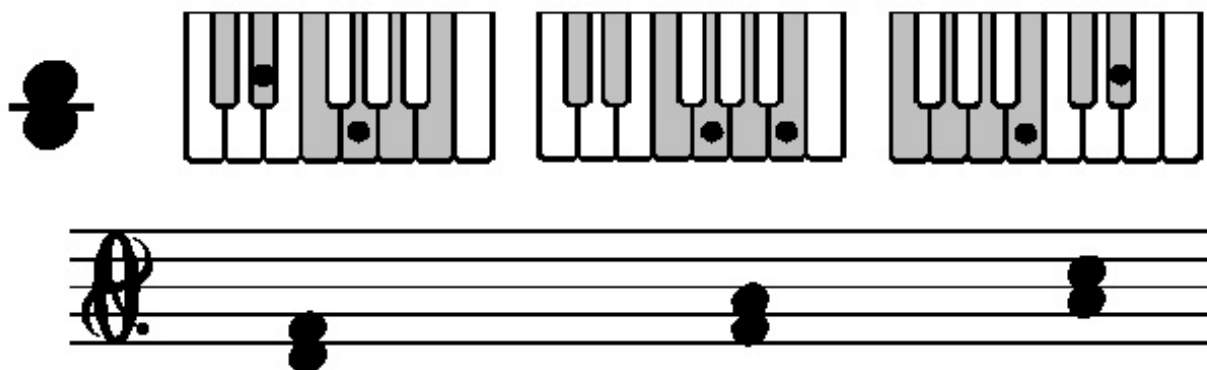
・ 間白音と間白音

4 半音音程の 2 音と対応する鍵盤



・ 間黒音と間黒音

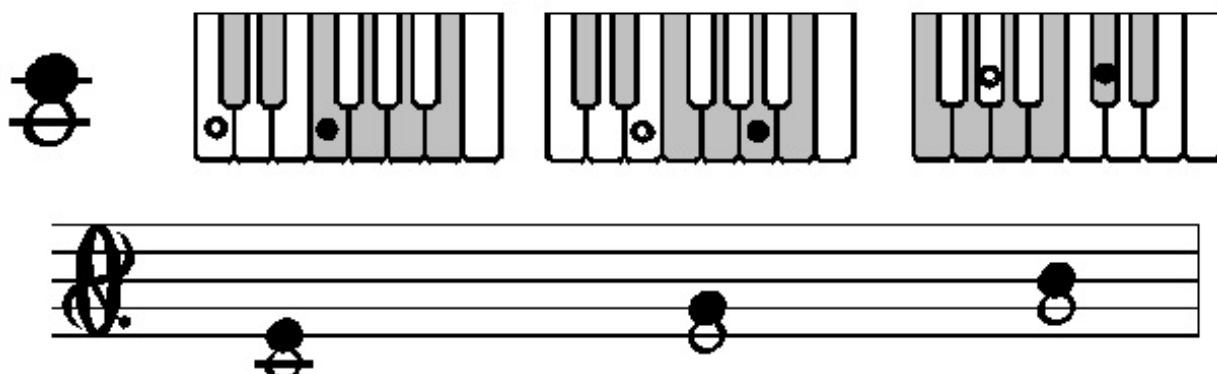
4 半音音程の 2 音と対応する鍵盤



④ 5 半音音程

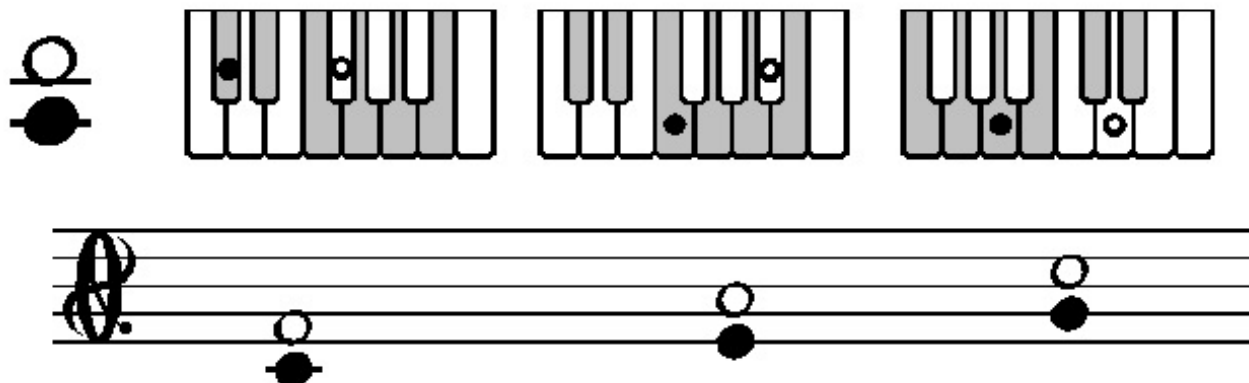
・ 線白音と線黒音

5 半音音程の 2 音と対応する鍵盤



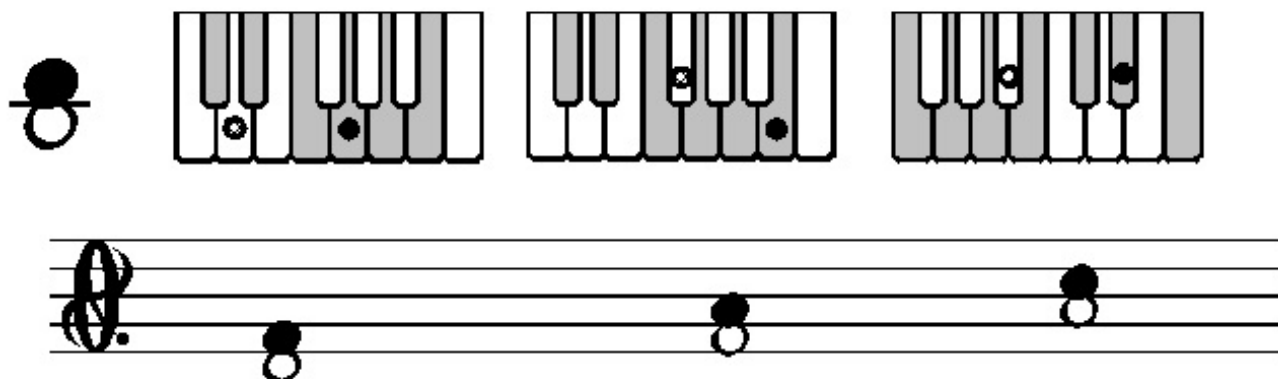
・ 線黒音と間白音

5 半音音程の 2 音と対応する鍵盤



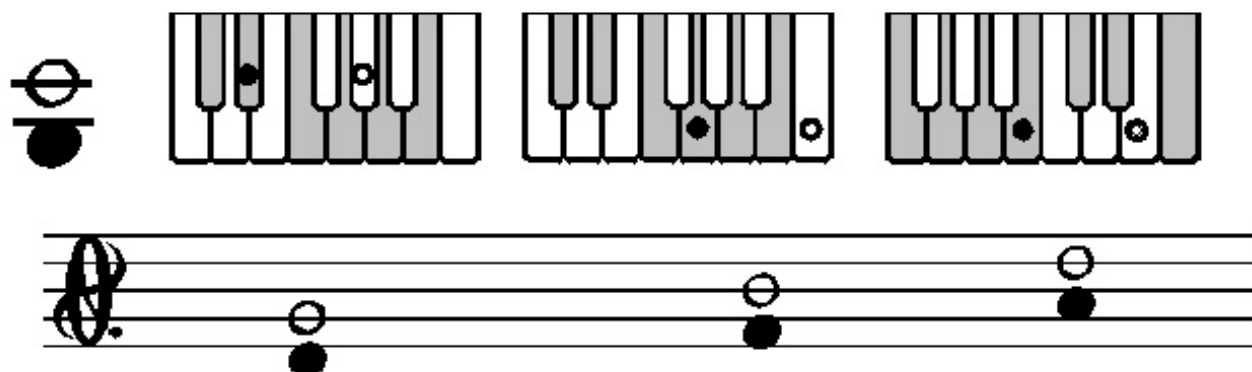
・ 間白音と間黒音

5 半音音程の 2 音と対応する鍵盤



・ 間黒音と線白音

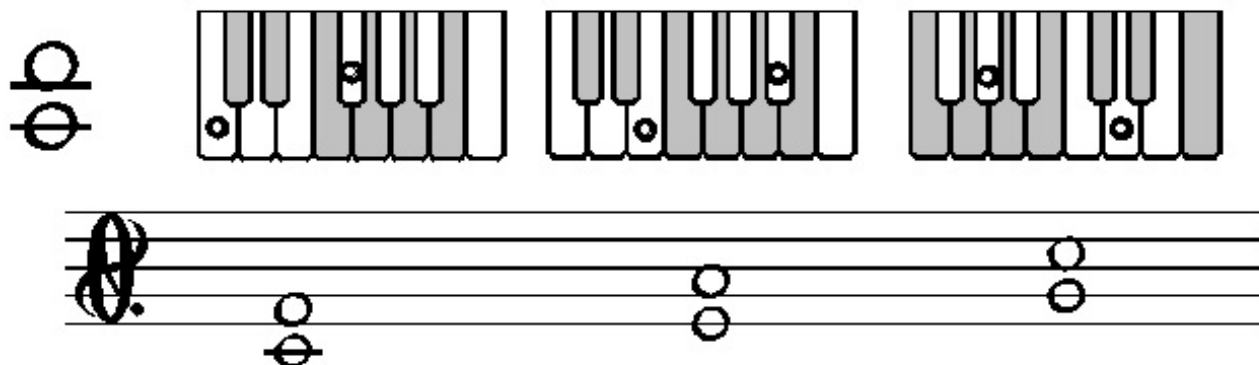
5 半音音程の 2 音と対応する鍵盤



⑤ 6 半音音程

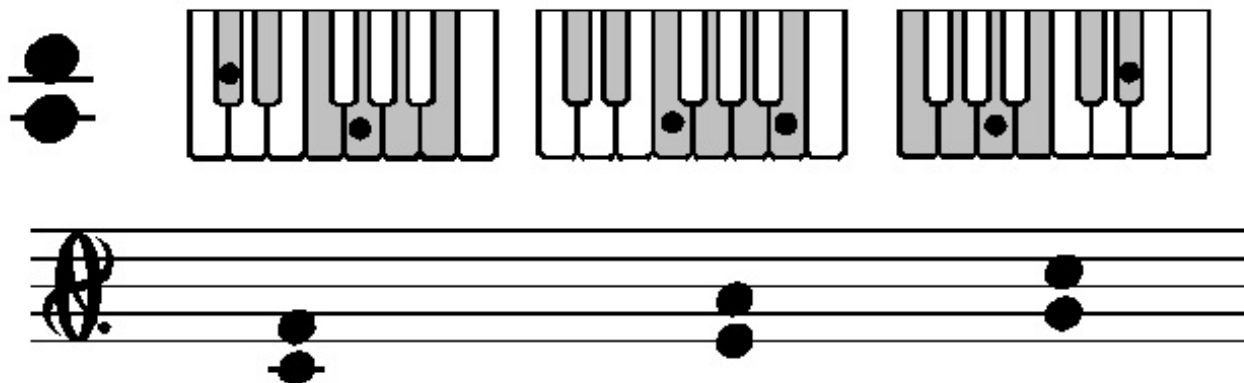
- ・ 線白音と間白音

6 半音音程の 2 音と対応する鍵盤



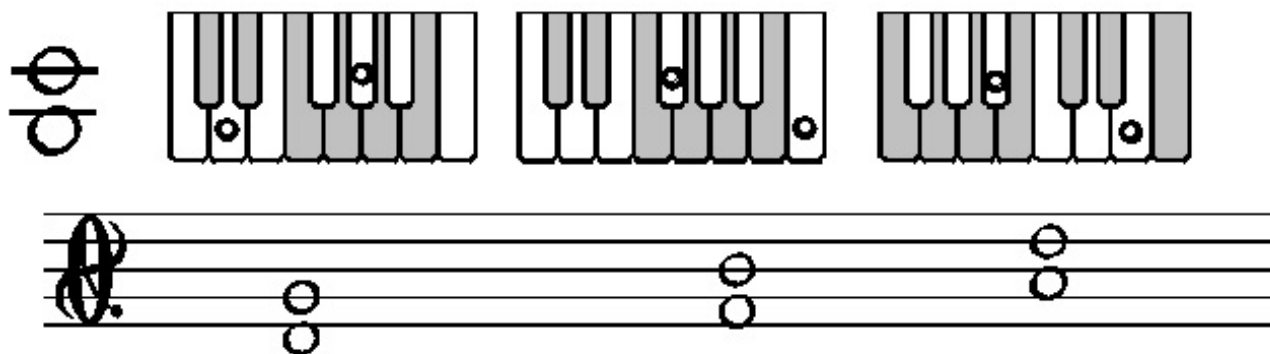
- ・ 線黒音と間黒音

6 半音音程の 2 音と対応する鍵盤



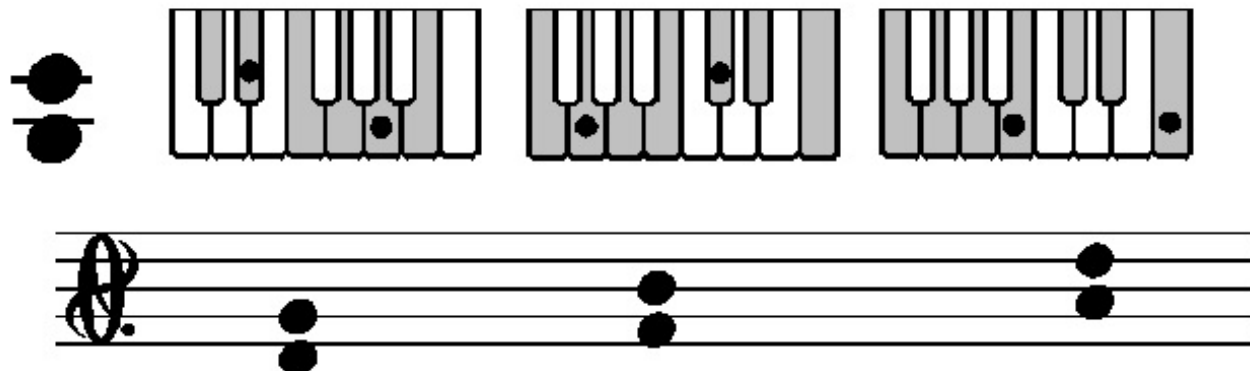
・ 間白音と線白音

6 半音音程の 2 音と対応する鍵盤



・ 間黒音と線黒音

6 半音音程の 2 音と対応する鍵盤



V. まとめ

☆☆ 楽譜が読みやすくなる理由 ☆☆

この方式によれば楽譜が読みやすく、分かりやすくなる理由をここで具体的に説明しておきます。

各調ともドレミファソラシドが同じ表記になります。しかもどの調も互いに五線譜上では位置が完全に異なった表記となるため、各調の識別が非常に簡単に出来ます。白調と黒調の2種類あるものの、ドレミファソラシドの位置が機械的に相対的に夫々皆同じであり、しかも上述のようにどの調も互いに五線譜上では位置が完全に異なった表記となるため、従来とは異なり調の違いの紛らわしさが無くなります。ドレミファソラシドの表示がこのように整理され、明白なものになっています。

これはシャープとフラットを使用しないことによるものです。シャープとフラットを使用しないことにより、各調ともドレミファソラシドが同じ表記に出来るのです。

また一度、鍵盤と音符の位置対応を憶えてしまえば、これは調には無関係の為、どの調も同じ要領で弾くことが出来ます。従来は音符と鍵盤の対応が調により全てと言ってよいほど異なっていました。新方式ではこれが全く同じなのです。これは楽譜の読みを劇的にやさしくしていることになります。つまり、鍵盤と音符の位置対応を憶えるとよいのです。これを一度憶えてしまえば、後は皆同じように弾く事ができるのです。

これは調を気にせずに、どの調も同じ様に弾くことが出来るということになります。従来のハ長調よりもっとやさしく、どの調も弾けることになります。従って一度この方式に慣れれば、簡単で分かりやすいものになることがよく分かります。

シャープとフラットは音楽にそもそも必要ないものなのです。それに関わらずこれらを使用すると話が複雑になってしまうのです。これらを使用しなければ楽譜は簡単なものなのです。（この理由を詳しく知りたければ“音楽に＃・♭は全く必要ありません”【<http://p.booklog.jp/book/27711>】を開いて見て下さい。詳述されています。）

☆☆ その他の 1 2 音譜の実例 ☆☆

更に実際の 1 2 音譜で書かれた曲の例がいくつか

<http://km87290.web.fc2.com/htdocs/Japanese/page23.html#link-1>（ホームページ）にあります。
。これも開いて参考にして下さい。

☆☆ まとめ ☆☆

新しい楽譜（1 2 音譜）に早く慣れるために、この楽譜を使用するにあたってのポイントとなる点をまとめました。

今までは誰もがシャープとフラットの使用に慣れ切っているため、はじめは新方式に少々戸惑ったり、混乱したりするかもしれません。どうしても半音上げるとか、半音下げるという考えが出てくるかもしれないからです。

しかしこの方式は半音上げるとか、半音下げるといような音符の間接読みではなく、音符を直接読むものです。ですから先ず半音上げるとか、半音下げるとい考え方を全て捨て去ることが必要になります。音符は直読するという、言わば当然のことである自然の方式に帰ろうといものです。

一度この楽譜に慣れれば音符を常に直接読めるので、逆に非常にシンプルになるのが良く分かるはずで。また、シャープとフラットは全く使う必要がないと思うようになるはずで。新しい楽譜の理解が少しでも進むことを望んで止みません。

なお、この冊子では純正律の話まではしていませんが、実は平均律でも純正律でも同じような話で。但し純正律では音の数が増えて来ますので、これに対応しているものになります。詳しくは“音楽に＃・♭は全く必要ありません”（<http://p.booklog.jp/book/27711>）を開いて見て下さい。

新しい楽譜（１２音譜）に慣れる為に

<http://p.booklog.jp/book/61946>

著者：夏山澄夫

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gkibsie93lkmn1/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/61946>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/61946>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ